

2024 年度

情報公開

- 大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書
- 実務経験のある教員等による授業科目
- 客観的な指標の算出方法
- 卒業の認定に関する方針
- シラバス
- 学校関係者評価

申請情報

1. 申請年度

2024

2. 申請区分

更新確認申請（昨年度、機関要件を満たしていた。）

3. 設置者に関する情報

設置者の法人類型	学校法人
設置者の名称	学校法人 栗岡学園
設置者の主たる事務所の所在地	大阪府四條畷市田原台6-1-1
設置者の代表者の役職	理事長
設置者の代表者の氏名	栗岡 隆顕

4. 大学等に関する情報

大学等の種類	私立専門学校
大学等の名称	学校法人栗岡学園 阪奈中央看護専門学校
大学等の所在地	奈良県生駒市俵口町450番地
学長又は校長の氏名	学校長 陰山 克

5. 申請書を公表する予定のホームページアドレス

www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html

奈良県知事 殿

学校法人 栗岡学園

理事長 栗岡 隆顕

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	学校法人栗岡学園 阪奈中央看護専門学校
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校・ 専門学校)
大学等の所在地	奈良県生駒市俣口町450番地
学長又は校長の氏名	学校長 陰山 克
設置者の名称	学校法人 栗岡学園
設置者の主たる事務所の所在地	大阪府四條畷市田原台6-1-1
設置者の代表者の氏名	栗岡 隆顕
申請書を公表する予定のホームページアドレス	www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

 この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。 この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取

り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	法人本部 田中	0743-70-0158	n-tanaka@wakoucai.co.jp
第2号の1	看護学科 大池	0743-74-9058	info@hanna-kango.ac.jp
第2号の2	法人事務局 藤岡	0743-74-8875	mikio@wakoucai.co.jp
第2号の3	看護学科 大池	0743-74-9058	info@hanna-kango.ac.jp
第2号の4	法人本部 田中 事務局 草次	0743-70-0158	n-tanaka@wakoucai.co.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☑) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事(役員)名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校名	学校法人栗岡学園 阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人 栗岡学園

I. ① 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	989,059,236円	1,149,396,800円	-160,337,564円
申請2年度前の決算	1,018,883,227円	1,159,409,283円	-140,526,056円
申請3年度前の決算	1,040,033,454円	1,140,431,030円	-100,397,576円

I. ② 直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	3,296,454,093円	183,270,621円	3,113,183,472円

II. 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	120人	119人	99%
前年度	120人	119人	99%
前々年度	120人	119人	99%

(I. ②の補足資料) 「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
現金	現金	14,690,381円
当座預金	当座預金	995,815円
普通預金	普通預金	508,897,961円
定期預金	定期預金	2,771,869,936円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
長期借入金	借入金	150,853,000円
短期借入金	借入金(1年未満返済予定)	9,996,000円
未払金	年度末未払金	22,421,621円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

学校名	学校法人栗岡学園 阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人 栗岡学園

1. 高等教育の修学支援新制度の対象となる学部等

分野	課程名	学科名	修業 年限	昼夜	時間制 単位制
医療	医療専門課程	看護学科	3年	昼間	時間制
(上記学科のうち、募集停止や完成年度到達前の学部等)					

2. 支援対象者が在籍できない学部等

分野	課程名	学科名	理由
医療	看護高等課程	准看護科	専門課程ではないため。

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※ 専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	学校法人栗岡学園 阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人 栗岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	看護学科	夜・通信	240 単位時間	240単位時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の1-②関係【実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》】

学校名	学校法人栗岡学園 阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人 栗岡学園

学科名	看護学科		
実務経験のある教員等による授業科目名	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	
関係法規	30 単位時間	240単位時間	
看護学概論	30 単位時間		
基礎看護技術論Ⅱ	30 単位時間		
基礎看護技術論Ⅲ	30 単位時間		
生活援助技術論Ⅲ	30 単位時間		
治療処置別看護	30 単位時間		
症状別看護	30 単位時間		
看護研究概論	15 単位時間		
地域環境論	15 単位時間		
	単位時間		
	単位時間		
	単位時間		
	単位時間		
	単位時間		
	単位時間		
単位数又は授業時数の合計	240 単位時間		

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	学校法人栗岡学園 阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人 栗岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園HPにて公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	歯科医院 院長	2021.7.15 ~ 2026.7.14	民間の視点からの適正な学校運営の指導・助言
非常勤	社会福祉法人 事務長	2021.7.15 ~ 2026.7.14	民間の視点からの適正な学校運営の指導・助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	学校法人栗岡学園 阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人 栗岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>3月 年度末の授業計画の見直し 教務主任が教育課程の編成、教育計画・授業計画を立案 各授業の担当教員がシラバスを作成</p> <p>8月 教務会において主に前期分の授業計画(シラバス)の評価 「学生便覧」の「科目目標」との整合性の点検 授業年次・時期の検討</p> <p>翌2月 教務会において主に後期分の授業計画(シラバス)の評価 「学生便覧」の「科目目標」との整合性の点検 授業年次・時期の検討</p> <p>3月 教務で取りまとめ、学生便覧に授業概要を掲載</p> <p>4月 新入生に授業概要を配布</p> <p>4月～ 講義開始時、授業計画を配布</p>	
授業計画書の公表方法	学生便覧に掲載・配布 学校HPにて公開 www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>単位認定は、講義、臨地実習等に必要な時間の取得状況と授業計画に則った学修成果の評価(試験、学習報告等)により行っている。</p> <p>授業科目の評価は試験やレポート等で行い、評価を点数換算する。 優(80点以上)、良(70点から79点)、可(60点から69点)、不可(60点未満) 可以上を合格とし、合格者には所定の授業科目の単位認定を行う。 大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者については、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>履修科目の成績評価を点数化、全科目の合計点の平均を算出(100点満点で点数化)し、順位付けする 学生には、自らの得点と順位を記したものを配布</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学校HPにて公開 www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

教育理念に基づき、以下の卒業時の到達目標を身につけた者に卒業を認定する

- 1) 人間を理解し、生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を養う。
 - (1) 命を尊ぶことができる。
 - (2) 自分自身を大切にすることができる。
 - (3) 自己および他者を、ありのまま受止めることができる。
- 2) より良い人間関係を築く能力を養う。
 - (1) 豊かな表現力を身につけることができる。
 - (2) 対象との間に信頼関係を築くことができる。
- 3) 看護の対象である人間を統合的に理解する。
 - (1) 対象者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。
 - (2) 対象者を発達段階から捉えることができる。
 - (3) 対象者をあらゆる健康の段階から捉えることができる。
- 4) 看護の知識と技術を身につけ、さらにこれを活用し得る能力を養う。
 - (1) 個別的な看護が実践できる。
 - (2) 科学的根拠に基づいた看護を実践できる。
 - (3) 発展的思考を身につけることができる。
- 5) 保健医療福祉チームの一員として看護を実践し、協働活動できる能力を養う。
 - (1) 社会の変化に関心を持ち、看護に対するニーズを理解できる。
 - (2) 保健医療福祉領域の中で看護師の役割を理解できる。
 - (3) 他職種との協働活動ができる。
- 6) 自己の看護観を育み、専門職業人としての態度を養う。
 - (1) 看護に対する見方、考え方を明らかにできる。
 - (2) 看護倫理、法的基準に基づき看護が実践できる。
 - (3) 主体的に自己の課題を見出し、継続して研究する姿勢を身につける。

併せて、講義、臨地実習等に必要な出席時間数と授業科目の評価により、単位認定を行う。

- (1) 出席時間数が授業時間数の3分の2以上
- (2) 授業科目及び臨地実習の評価

優 (80点以上)、良 (70点~79点)、可 (60点~69点)、不可 (60点未満)

可以上を合格とし、合格者に授業科目の履修認定を行う

(3) 大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者は、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる

出席日数の3分の2以上を満たし、すべての授業科目の単位認定を受けた者について、学校運営会議の議を経て卒業を認定する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学校HPにて公開
www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※ 専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	学校法人栗岡学園 阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人 栗岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
収支計算書又は損益計算書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
財産目録	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
事業報告書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
監事による監査報告（書）	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	看護学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	3,090	2,090		1,000		
			単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		単位時間	3090 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		119人	1人	10人	44人	54人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

3月 年度末の授業計画の見直し
教務主任が教育課程の編成、教育計画・授業計画を立案
各授業の担当教員がシラバスを作成

8月 教務会において主に前期分の授業計画(シラバス)の評価
「学生便覧」の「科目目標」との整合性の点検
授業年次・時期の検討

翌2月 教務会において主に後期分の授業計画(シラバス)の評価
「学生便覧」の「科目目標」との整合性の点検
授業年次・時期の検討

3月 教務で取りまとめ、学生便覧に授業概要を掲載

4月 新入生に授業概要を配布

4月～ 講義開始時、授業計画を配布

成績評価の基準・方法

(概要)

単位認定は、講義、臨地実習等に必要な時間の取得状況と授業計画に則った学修成果の評価（試験、学習報告等）により行っている。
授業科目の評価は試験やレポート等で行い、評価を点数換算する。
優（80点以上）、良（70点から79点）、可（60点から69点）、不可（60点未満）
可以上を合格とし、合格者には所定の授業科目の単位認定を行う。
大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者については、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念に基づき、以下の卒業時の到達目標を身につけた者に卒業を認定する

- 1) 人間を理解し、生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を養う。
- 2) より良い人間関係を築く能力を養う。
- 3) 看護の対象である人間を統合的に理解する。
- 4) 看護の知識と技術を身につけ、さらにこれを活用し得る能力を養う。
- 5) 保健医療福祉チームの一員として看護を実践し、協働活動できる能力を養う。
- 6) 自己の看護観を育み、専門職業人としての態度を養う。

併せて、講義、臨地実習等に必要な出席時間数と授業科目の評価により、単位認定を行う。

(1) 出席時間数が授業時間数の3分の2以上

(2) 授業科目及び臨地実習の評価

優（80点以上）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（60点未満）

可以上を合格とし、合格者に授業科目の履修認定を行う

(3) 大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者は、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる

出席日数の3分の2以上を満たし、すべての授業科目の単位認定を受けた者について、学校運営会議の議を経て卒業を認定する。

学修支援等

(概要)

担任が面談を実施、生活状況・学習状況を把握した上で指導している。

1年次より、カリキュラム外で国家試験対策を講じている。

学生・教員で国家試験対策委員を組織し、学年を超えた相互学習を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
38人 (100%)	0人 (0.0%)	38人 (100.0%)	0人 (0.0%)
（主な就職、業界等）			
病院・診療所			
（就職指導内容）			
就職セミナーの開催、就職活動に向けたマナー研修の実施			
（主な学修成果（資格・検定等））			
看護師国家試験受験資格取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
120人	3人	2.5%
（中途退学の主な理由）		
一身上の都合		
（中退防止・中退者支援のための取組）		
専門心理師によるカウンセリング		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
看護学科	250,000円	450,000円	350,000円	施設設備充実費・実習費
修学支援（任意記載事項）				
診療費補助制度				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
学校HPにて公開 www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
<p>自己評価結果の客観性・透明性を高めるため、学外関係者による「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主な評価項目：教育、施設、学生サービスなど ○評価委員の定数：5名以上 ○評価委員の選出区分：卒業生、企業関係者、高校関係者、地域住民、教育関連有識者など ○評価結果の活用方法：学校運営等の改善に活用する。評価結果ならびに改善策と実施の時期等についてはホームページで随時公表する。 		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人和幸会 阪奈中央病院	2024. 1. 1 2025. 12. 31	企業関係者
奈良県専修学校各種学校連合会	2024. 1. 1 2025. 12. 31	教育関連有識者
学校法人興国学園 興国高等学校	2024. 1. 1 2025. 12. 31	高校関係者
医療法人和幸会パークヒルズ田原苑	2024. 1. 1 2025. 12. 31	地域住民
医療法人和幸会阪奈中央病院リハビリ部	2024. 1. 1 2025. 12. 31	企業関係者
医療法人和幸会阪奈サナトリウム	2024. 1. 1 2025. 12. 31	卒業生
医療法人和幸会阪奈中央病院	2024. 1. 1 2025. 12. 31	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
学校HPにて公開 www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
www.hanna-kango.ac.jp

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	学校法人栗岡学園 阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人 栗岡学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		10人	9人	10人
内訳	第Ⅰ区分	3人	3人	
	第Ⅱ区分	2人	1人	
	第Ⅲ区分	5人	5人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				10人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	3人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	3人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	学校法人栗岡学園 阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人 栗岡学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		-	-	-
内 訳	第Ⅰ区分	-	-	-
	第Ⅱ区分	-	-	-
	第Ⅲ区分	-	-	-
	第Ⅳ区分	0人	0人	-
家計急変による支援対象者（年間）		-	-	0人
合計（年間）		-	-	-
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	—		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

別表(1)

看護学科教育課程

教育内容		授業科目	単位数	時間数	実務経験	教育内容	授業科目	単位数	時間数	実務経験	
基礎分野	科学的思考の 基盤	国語表現法	1	30		地域・在宅看護論	地域環境論	1	15	有	
		論理的思考	1	30			地域・在宅看護概論	1	15	有	
		生活科学	1	30			地域・在宅看護実践論Ⅰ	1	30	有	
		看護情報学	1	30			地域・在宅看護実践論Ⅱ	1	30	有	
	哲学	1	30		地域・在宅看護実践論Ⅲ		1	15	有		
	チーム医療論	1	15		成人看護学		成人看護学概論・保健論	1	15	有	
	人間と生活・社会の理解	心理学	1	30		急性期看護論	1	30	有		
		社会学	1	30		回復期看護論	1	30	有		
		教育学	1	30		慢性期看護論	1	30	有		
		文化人類学	1	30		終末期看護論	1	30	有		
		人間関係論	1	30		がん・周術期看護論	1	30	有		
		家族看護学	1	30		老年看護学	老年看護学概論・保健論	1	15	有	
		コミュニケーション論	1	15		老年看護論Ⅰ	1	30	有		
	生命倫理	1	15		老年看護論Ⅱ	1	30	有			
英語・英会話	1	30		老年看護論Ⅲ	1	15	有				
小計	14	390	0	専門分野	小児看護学	小児看護学概論	1	15	有		
小計	14	390	0		母性看護学	母性看護学概論・保健論	1	15	有		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2		60	有	母性看護論Ⅰ	1	30	有	
		解剖生理学Ⅱ	2		60	有	母性看護論Ⅱ	1	30	有	
		生化学	1		30	有	母性看護論Ⅲ	1	15	有	
		栄養学	1		15	有	精神看護学	精神看護学概論・保健論	1	15	有
	疾病の成り立ちと回復の促進	看護形態機能学	1		30	有	精神看護論Ⅰ	1	30	有	
		微生物学	1		30	有	精神看護論Ⅱ	1	30	有	
		病理学	1		30	有	精神看護論Ⅲ	1	15	有	
		疾病論Ⅰ	1		30	有	統合と実践の看護	看護の統合と実践概論<看護管理 医療安全>	1	30	有
		疾病論Ⅱ	1		30	有	看護の統合と実践Ⅰ<国際看護 災害看護>	1	30	有	
		疾病論Ⅲ	1		30	有	看護の統合と実践Ⅱ<看護技術の統合演習>	1	30	有	
		疾病論Ⅳ	1		30	有	看護の統合と実践Ⅲ<ケーススタディ>	1	15	有	
		疾病論Ⅴ	1		30	有	基礎看護学実習Ⅰ	1	40	有	
	疾病論Ⅵ	1	30		有	基礎看護学実習Ⅱ	2	90	有		
	薬理学	1	30		有	地域・在宅看護論実習	2	90	有		
社会福祉と健康支援と社会保障制度	社会福祉論	1	30		有	成人・老年看護学実習Ⅰ<施設>	2	60	有		
	公衆衛生	1	30		有	成人・老年看護学実習Ⅱ<慢性期Ⅰ>	2	90	有		
	運動科学	1	20		有	成人・老年看護学実習Ⅲ<慢性期Ⅱ>	2	90	有		
	関係法規	1	30		有	成人・老年看護学実習Ⅳ<急性期>	2	90	有		
	治療総論Ⅰ	1	30		有	成人・老年看護学実習Ⅴ<回復期・リハビリテーション期>	2	90	有		
治療総論Ⅱ	1	30	有		小児看護学実習	2	90	有			
小計	22	635	635	母性看護学実習	2	90	有				
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	有	精神看護学実習	2	90	有		
		基礎看護技術論Ⅰ	1	30	有	看護の統合と実践実習	2	90	有		
		基礎看護技術論Ⅱ	1	30	有	小計	66	2065	2065		
		基礎看護技術論Ⅲ	1	30	有	総計	102	3090	2700		
		生活援助技術論Ⅰ	1	30	有						
		生活援助技術論Ⅱ	1	30	有						
		生活援助技術論Ⅲ	1	30	有						
		診療援助技術論	1	30	有						
		治療処置別看護	1	30	有						
		症状別看護	1	30	有						
		看護研究概論	1	15	有						

(3) 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

令和5年度

客観的な指標の算出方法
履修科目の成績評価を点数化、全科目の合計点の平均を算出（100点満点で点数化）し、順位付けする。学生には、自らの得点と順位を記したものを配布。

学科名	看護学科	1学年	学生数	39
成績の分布				
指標の数値	～70点	70.1～80点	80.1～90点	90.1～100点
人数	4	16	15	4
下位1/4に該当する人数	9人			
下位1/4に該当する指標の数値	74.2 点以下			

学科名	看護学科	2学年	学生数	38
成績の分布				
指標の数値	～70点	70.1～80点	80.1～90点	90.1～100点
人数	0	10	25	3
下位1/4に該当する人数	9人			
下位1/4に該当する指標の数値	78.2 点以下			

学科名	看護学科	3学年	学生数	40
成績の分布				
指標の数値	～70点	70.1～80点	80.1～90点	90.1～100点
人数	4	18	15	3
下位1/4に該当する人数	10人			
下位1/4に該当する指標の数値	75.0 点以下			

卒業の認定に関する方針について

教育理念に基づき、以下の卒業時の到達目標を身につけた者に卒業を認定する

- 1) 人間を理解し、生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を養う。
 - (1) 命を尊ぶことができる。
 - (2) 自分自身を大切にすることができる。
 - (3) 自己および他者を、ありのまま受止めることができる。
- 2) より良い人間関係を築く能力を養う。
 - (1) 豊かな表現力を身につけることができる。
 - (2) 対象との間に信頼関係を築くことができる。
- 3) 看護の対象である人間を統合的に理解する。
 - (1) 対象者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。
 - (2) 対象者を発達段階から捉えることができる。
 - (3) 対象者をあらゆる健康の段階から捉えることができる。
- 4) 看護の知識と技術を身につけ、さらにこれを活用し得る能力を養う。
 - (1) 個別的な看護が実践できる。
 - (2) 科学的根拠に基づいた看護を実践できる。
 - (3) 発展的思考を身につけることができる。
- 5) 保健医療福祉チームの一員として看護を実践し、協働活動できる能力を養う。
 - (1) 社会の変化に関心を持ち、看護に対するニーズを理解できる。
 - (2) 保健医療福祉領域の中で看護師の役割を理解できる。
 - (3) 他職種との協働活動ができる。
- 6) 自己の看護観を育み、専門職業人としての態度を養う。
 - (1) 看護に対する見方、考え方を明らかにできる。
 - (2) 看護倫理、法的基準に基づき看護が実践できる。
 - (3) 主体的に自己の課題を見出し、継続して研究する姿勢を身につける。

併せて、講義、臨地実習等に必要な出席時間数と授業科目の評価により、単位認定を行う。

- (1) 出席時間数が授業時間数の3分の2以上
- (2) 授業科目及び臨地実習の評価
優(80点以上)、良(70点~79点)、可(60点~69点)、不可(60点未満)
可以上を合格とし、合格者に授業科目の履修認定を行う
- (3) 大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者は、既修得した単位が
当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる

出席日数の3分の2以上を満たし、すべての授業科目の単位認定を受けた者について、学校運営会議の議を経て卒業を認定する。

以上

別表(1)

看護学科教育課程

教育内容		授業科目	単位数	時間数	実務経験	教育内容	授業科目	単位数	時間数	実務経験
基礎分野	科学的思考の基盤	国語表現法	1	30		地域・在宅看護論	地域環境論	1	15	有
		論理的思考	1	30			地域・在宅看護概論	1	15	有
		生活科学	1	30			地域・在宅看護実践論Ⅰ	1	30	有
		看護情報学	1	30			地域・在宅看護実践論Ⅱ	1	30	有
	人間と生活・社会の理解	哲学	1	30			地域・在宅看護実践論Ⅲ	1	15	有
		心理学	1	30			チーム医療論	1	15	有
		社会学	1	30		成人看護学	成人看護学概論・保健論	1	15	有
		教育学	1	30			急性期看護論	1	30	有
		文化人類学	1	30			回復期看護論	1	30	有
		人間関係論	1	30			慢性期看護論	1	30	有
		家族看護学	1	30			終末期看護論	1	30	有
		コミュニケーション論	1	15			がん・周術期看護論	1	30	有
	生命倫理	1	15		老年看護学	老年看護学概論・保健論	1	15	有	
	英語・英会話	1	30			老年看護論Ⅰ	1	30	有	
小計	14	390	0	老年看護論Ⅱ		1	30	有		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2	60	有	老年看護論Ⅲ	1	15	有	
		解剖生理学Ⅱ	2	60	有	小児看護学	小児看護学概論	1	15	有
		生化学	1	30	有		小児看護学保健論	1	15	有
		栄養学	1	15	有		小児看護論Ⅰ	1	30	有
	看護形態機能学	1	30	有	小児看護論Ⅱ		1	30	有	
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30	有	母性看護学	母性看護学概論・保健論	1	15	有
		病理学	1	30	有		母性看護論Ⅰ	1	30	有
		疾病論Ⅰ	1	30	有		母性看護論Ⅱ	1	30	有
		疾病論Ⅱ	1	30	有		母性看護論Ⅲ	1	15	有
		疾病論Ⅲ	1	30	有	精神看護学	精神看護学概論・保健論	1	15	有
		疾病論Ⅳ	1	30	有		精神看護論Ⅰ	1	30	有
		疾病論Ⅴ	1	30	有		精神看護論Ⅱ	1	30	有
		疾病論Ⅵ	1	30	有		精神看護論Ⅲ	1	15	有
	社会保健支援と健康制度	薬理学	1	30	有	統合看護の実践	看護の統合と実践概論<看護管理 医療安全>	1	30	有
		社会福祉論	1	30	有		看護の統合と実践論Ⅰ<国際看護 災害看護>	1	30	有
		公衆衛生	1	30	有		看護の統合と実践論Ⅱ<看護技術の統合演習>	1	30	有
		運動科学	1	20	有		看護の統合と実践論Ⅲ<ケーススタディ>	1	15	有
		関係法規	1	30	有	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	40	有
		治療総論Ⅰ	1	30	有		基礎看護学実習Ⅱ	2	90	有
	治療総論Ⅱ	1	30	有	地域・在宅看護論実習		2	90	有	
	小計	22	635	20	成人・老年看護学実習Ⅰ<施設>		2	60	有	
	専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30		有	成人・老年看護学実習Ⅱ<慢性期Ⅰ>	2	90
基礎看護技術論Ⅰ			1	30	有		成人・老年看護学実習Ⅲ<慢性期Ⅱ>	2	90	有
基礎看護技術論Ⅱ			1	30	有		成人・老年看護学実習Ⅳ<急性期>	2	90	有
基礎看護技術論Ⅲ			1	30	有		成人・老年看護学実習Ⅴ<回復期・リハビリテーション期>	2	90	有
生活援助技術論Ⅰ			1	30	有		小児看護学実習	2	90	有
生活援助技術論Ⅱ			1	30	有		母性看護学実習	2	90	有
生活援助技術論Ⅲ			1	30	有	精神看護学実習	2	90	有	
診療援助技術論			1	30	有	看護の統合と実践実習	2	90	有	
治療処置別看護			1	30	有	小計	66	2065	55	
症状別看護			1	30	有	総計	102	3090	75	
看護研究概論			1	15	有					

授 業 科 目	国語表現法	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	鈴木 賢一郎 実務経験の有無：無
		次	前期	時 間	30 時間		
学習のねらい 日本語の構造や言葉の役割を知ることを通して、国語力をより確実なものにする。							
到達目標 1. 日本語の構造や言葉の役割を知り、基本的な作文能力を養う。 2. 手紙などの実用的な文章から、論文まで書けるようになる。							
事前学習 テキストを見ておく							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	国語表現法とは	講義	
2	三分節法について	講義	
3	基本的な文章構成について	講義	
4	レポートを書く	講義	
5	レポートの構成について	演習	
6	課題レポートの添削	講義	
7		演習	
8	文章を書く（論文）	講義	
9		演習	
10	論文の添削	講義	
11		演習	
12	手紙・ビジネス挨拶文を書く	講義	
13	挨拶状・お礼状・就職関係など	演習	
14			
15	終講試験		
使用テキスト： 看護学生のためのレポート・論文の書き方（KINPODO）		参考書 必要時紹介する	
評価の方法 出席状況・授業態度・提出物・終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	論理的思考	年	1年次	単位	1単位	担当	大本 達也 実務経験の有無：無
		次	前期	時間	30時間		
学習のねらい 論理的思考及び論理的思考に基づいた表現力と読解力を養う。							
到達目標 1. 論理的思考について学び、「読む・書く・聞く・話す」という実践の中で「論理的に思考する力」を身に着ける。							
事前学習 特になし							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	「論理的思考」について	授業	
2 3	評論文を要約する、自分の意見をまとめる。発表する。	演習	
4 5	小論文の書き方について 小論文の構成 小論文を書く		
6	レポートの書き方について レポートの特徴と作成について		
7 8	討議法について 討議法とは 討議法の種類		
9	カンファレンスについて カンファレンスの目的 役割 進め方		
1 0	グループワークについて		
1 1	ディベートについて		
1 2	ディベートの意義と目的 ディベートの方法 ディベート技術 資料収集法 立論の作り方 討議技術		
1 3	ディベート演習 ディベート試合 立論 反対尋問 など		
1 4	ディベートの進行 判定		
1 5	終講試験		
使用テキスト 資料		参考書	
評価の方法： 出席状況・演習の参加状況・レポート・終講試験を総合して評価する（評価の割合は授業の初回到に提示する）			

授業科目	生活科学	年	1年次	単位	1単位	担当	中谷 年成 実務経験の有無：無
		次	前期	時間	30時間		
学習のねらい 日常生活における健康に影響する危険因子について学び、看護実践へとつなぐ。							
到達目標 1. 日常生活の様々な事項について、健康に影響する危険因子とその対策について理解する。 2. 豊かな生活とライフスタイルの過去・現在・未来を思考し、生活観を培い看護実践への応用を考察することができる。							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	生活科学とは	講義	
2	エネルギー・資源と生活	講義	
3	水と生活	講義	
4	環境と生活	講義	
5	生命科学と生活		
6	生命科学と生活	講義	
7	情報・通信と生活	演習	
8	衣服材料と洗剤の安全性・衣服の管理	講義	
9	住まいと生活		
10	安全な住まいと今後の課題①②③	講義	
11		演習	
12			
13	食生活と安全性	講義	
13	人間に課せられた今後の課題		
15	終講試験		
使用テキスト： 配布資料			
参考書			
評価の方法 出席状況・授業態度・提出物・終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	看護情報学	年	1年次	単 位	1単位	担 当	浅居 孝彦 実務経験の有無：無
		次	前期	時 間	30時間		
学習のねらい 医療・看護領域における高度情報化に対応できるようになるために、コンピューターを活用でき、看護に関する情報管理について学ぶ。							
到達目標 1. 医療・看護を取り巻く情報化の現実を理解し、看護師にとっての情報の活用・管理の必要性が理解できる。 2. 情報のモラルの必要性や教法に対する責任について学び、情報管理の方法が理解できる。 3. 看護の現場において必要とされるコンピューターの知識、活用スキルを身につける。							
事前学習 特に必要なし							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1回	第1部 情報の定義と特徴 情報の定義と特徴・社会と情報	講義	
2回	日本が入力の基本（ブラインドタッチ、文字カウント、単語登録等）	実習	
3回	文章作成の技術（文字の書式、文章の体裁、レイアウト、箇条書き等）		
4回	（テキストボックス、図形描画の挿入、など）		
5回	表計算とは何か（セルの書式設定、表計算）		
6回	グラフの作成テクニックとワードへの張り付け		
7回			
8回	（中間テスト）ワード、エクセルの操作についての確認		
9回	情報倫理について		
10回	データ分析の準備（アンケートデータの加工作業とテーマの選定）		
11回	レポート作成のための準備		
12回			
13回	レポート作成		
14回	レポート作成状況の確認と課題のチェック		
15回			
使用テキスト 看護情報学（医学書院）			
評価の方法： 出席状況 授業態度 レポート提出 （評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	哲学	年	1年次	単位	1単位	担当	守津 隆 実務経験の有無：無
		次	前期	時間	30時間		
<p>学習のねらい</p> <p>看護する者も看護される者も同じ人間であり、その人間は心と体を備えた限りある生物体である。人間に対する根本的な認識から看護を考える。</p>							
<p>到達目標</p> <p>1. 「人間とは何だろうか？」という問題をいろいろな観点から考えることができる。</p>							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1～7	諸学における哲学の位置 その対象 1. 人間とは何か (1) 人間と世界 (2) ところとからだ (3) 表現と意味 (4) 人間と遊び	講義	
8～14	2. 共に生きるということ (1) わたしと他者 (2) わたしと社会 (3) ケアと看護 (4) 愛と自由		
15	終講試験		
使用テキスト： 資料を配布する		参考書	
<p>評価の方法</p> <p>出席状況、レポートおよび終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）</p>			

授 業 科 目	心理学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	三枝 好恵 実務経験の有無：無
		次	前期	時 間	30 時間		
学習のねらい 人間の心理と行動を科学的にとらえ説明する心理学の諸領域の基礎理論について学ぶ。							
到達目標 1. 知覚・記憶・学習・思考・感情・性格（人格）・欲求など基礎心理学から看護に必要な日常行動等について考察できる。 2. 看護実践における人間関係に影響する諸要因を包括的に考察する能力を養うことができる。							
事前学習							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	心理学とは（対象、歴史、研究方法）	講義 (演習)	
2	心の働く（感覚・知覚）		
3	心の働き（思考・言語・知能）		
4	心の働き（学習）		
5	心の働き（感情・動機付け）		
6	心の働き（記憶）		
7	動機付け パーソナリティー（性格）		
8	発達（発達の原理）		
9	発達（発達段階の特徴）		
10	社会と集団		
11	心理臨床（心の適応・不適応）		
12	心理臨床（心理療法）		
13	医療、看護と心理（対人援助、患者の心理）		
14	医療、看護と心理（看護職者の心理）		
15	終講試験		
使用テキスト： 心理学（医学書院）		参考書 授業で紹介する	
評価の方法 出席状況・授業態度・提出物・終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	社会学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	野々村 元希 実務経験の有無：無
		次	前期	時 間	30 時間		
学習のねらい 社会と社会の中で起こるさまざまな事象のなりたちやあり方についてまなぶ。							
到達目標 1. 人間の社会的行為及び社会的存在としての人間について理解を深める。 2. 健康や看護と社会のかかわりについて捉えることができる。							
事前学習 新聞やニュースより社会情勢について情報収集しておく							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	「社会学」とはどういう学問か	講義 (演習)	
2	社会化		
3	社会化とジェンダー		
4	地位と役割		
5	社会と自己		
6	映画「カッコーの巣の上で」		
7	映画「カッコーの巣の上で」		
8	感情と社会		
9	集団のなかの個人		
10	組織の中の個人		
11	社会的逸脱		
12	予言の自己成就		
13	社会的ジレンマ		
14	自殺と社会		
15	終講試験		
使用テキスト： 配布資料による		参考書 授業で紹介する	
評価の方法 出席状況・授業態度・提出物・終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	教育学	年	1年次	単位	1単位	担当	中田 正浩 実務経験の有無：無
		次	前期	時間	30時間		
学習のねらい 教育学に関する基礎的な知識を学び、「学ぶこと」や「教えること」について考察する。							
到達目標 1. 「教育」の概念について学び、「教育をなりたさせるもの」教授・訓育・養護・発達について学ぶ。 2. 学びの場や目標・ひょうかなどより、教育の営みを考える。 3. 現在教育の課題について理解する。							
事前学習 テキストを見ておく							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	「教育」とはなにか 教育の対象	講義	
2	社会変動と教育 教育の組織化（学校）		
3	人を教えるということ 訓育		
4	教育の受け手を見守る		
5	教育を受けて成長する		
6	学びの場		
7	教育の目標と評価		
8	教育のメディア 教育をデザインする		
9	教育の担い手		
10	教育の場の変動		
11	キャリア教育（専門教育）		
12	ジェンダーとセクシャリティ		
13	特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育		
14	生涯教育		
15	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学 教育学（医学書院）		参考書 授業の中で紹介する	
評価の方法 出席状況・授業態度・提出物・終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	文化人類学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	西垣 有 実務経験の有無：無
		次	前期	時 間	30 時間		
学習のねらい 文化人類学（人間の多様な社会や文化に関する比較研究）の知見のもとに、看護行為の前提となる人間の相互理解のあり方について検討し、看護師として人間・社会関係の構築に必要な資質や能力を学ぶ。							
到達目標 1. 人間をめぐる様々な社会や文化の事象を「当たり前」と考えることが通用しない社会があることを理解できる 2. 自文化と異文化への理解を深め、文化の多様性や個別性、普遍性について理解できる。							
事前学習 テキストを見ておく							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	人間と文化	講義 及び 演習	
2	異文化理解とフィールドワーク		
3	フィールドの事例から		
4	人と人とのつながり（1）個人、人格、生殖		
5	人と人とのつながり（2）生殖、代理母		
6	人と人とのつながり（3）婚姻、家族・親族		
7	人生と時間（1）儀礼と境界		
8	人生と時間（2）		
9	人生と時間（3）		
10	人生と時間（4）フリーターとトレーダー		
11	宗教 アニミズム 呪術 妖術		
12	健康 病気 医療（1）		
13	健康 病気 医療（2）		
14	死		
15	終講テスト		
使用テキスト： 文化人類学（医学書院）		参考書	
評価の方法 出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。特に提出物（レポート）は重視します。 （評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	人間関係論	年	1年次	単位	1単位	担当	キャンベル 早川久美子 実務経験の有無：無
		次	前期	時間	30時間		
<p>学習のねらい</p> <p>多様化する社会の中で、看護の対象のもつ価値観や期待を理解し、尊重することは重要である。また、保健医療福祉専門職、家族、地域社会との密接な連携が不可欠である。いずれの場面においても、相手の思い、考え、期待などを理解するとともに、専門職として必要な情報提供や説明を行い、協働で看護を提供していくための合意と人間関係を築いていくための態度や能力について学ぶ。</p>							
<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己を知ることを出発点に、看護の対象のもつ価値観や期待を理解する 2. 看護の対象や多職種との人間関係を築くための態度や能力について理解する。 							
<p>事前学習</p> <p>テキストを読んでおく</p>							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	人間関係論とは	講義 GW 演習	
2	エリクソンの発達理論 自己概念		
3	対人認知		
4	対人関係と役割		
5	態度と対人行動		
6	集団と個人		
7	コミュニケーション		
8	カウンセリングと心理療法 ロジャース フロイト		
9	カウンセリングと心理療法 行動療法		
10	カウンセリングと心理療法の具体		
11	コーチング		
12	グループ研究：アサーティブ コミュニケーション		
13	グループ研究：アサーティブ コミュニケーション		
14	グループ研究：家族を含めた人間関係 地域を作る人間関係		
15	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学講座 人間関係論（医学書院）		参考書 授業中に紹介する	
<p>評価の方法</p> <p>出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）</p>			

授業科目	家族看護学	年	1年次	単位	1単位	担当	松村 あゆみ 実務経験の有無：無
		次	後期	時間	30時間		
学習のねらい 複雑かつ多様な家族を理解するにあたり、家族看護の対象の理解や家族看護を支える理論と介入方法、家族看護展開の方法について学ぶ。							
到達目標 1. 家族看護の対象とその介入方法について理解する。 2. 家族看護展開の方法と、事例に基づく実践ができる。							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	家族看護とは	講義	
2	家族看護の対象の理解	講義	
3	・家族のとらえ方	演習	
4	・家族機能		
5～6	・家族構造 ・現在の家族とその課題	講義	
7～8	家族看護を支える理論と介入方法	講義	
9～14	家族看護展開の方法 ・家族看護過程とは ・家族看護の実践 ・さまざまな家族アセスメントモデル	演習	
15	事例に基づく家族看護学の実践		
15	終講試験		
使用テキスト 家族看護（医学書院）			
参考文献			
評価の方法： 授業態度・出席状況・レポート・終講試験を総合して判断する。（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	コミュニケーション論	年	1年次	単位	1単位	担当	三枝 好恵 実務経験の有無：無
		次	前期	時間	15時間		
学習のねらい コミュニケーションの基礎について学び、基礎的なコミュニケーション能力を養う。							
到達目標 1. コミュニケーションの特性・技術を理解し、コミュニケーションの基本を学ぶ。 2. 演習を通して、コミュニケーションの実際を経験し、方法を学ぶ。							
事前学習 テキストを読んでおく							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	コミュニケーションの意義と目的について コミュニケーションとは	講義	
2	コミュニケーションの構成要素と成立過程		
3	コミュニケーションの手段 構成要素と成立過程 ミスコミュニケーション		
4	関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義・演習	
5	自己紹介		
6	効果的なコミュニケーションの実際	演習	
7	カウンセリング 他 日常場面からみるコミュニケーション		
8	終講試験		
使用テキスト 基礎看護技術 I (医学書院) 他			参考書
評価の方法： 出席状況・演習の参加状況・レポート・終講試験を総合して評価する（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	生命倫理	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	守津 隆 実務経験の有無：無
		次	前期	時 間	15 時間		
学習のねらい 死生観を捉え、医療の変化を医学の進歩を踏まえて学び、生命と倫理をめぐる諸問題を明らかにする。							
到達目標 1. 生命と倫理をめぐる諸問題について理解することができる。 2. 歴史的考察を踏まえ、脳死や安楽死、臓器移植等の「生命倫理」の諸問題について考察できる。							
事前学習 テキストを見ておく							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	生命倫理の成立史 安楽死、尊厳死問題	講義 GW	
2	安楽死問題の歴史 東海大事件		
3	緩和ケア ホスピス運動の目的		
4	医療資源配分の選定基準		
5	生涯新生児問題 出生前診断の問題		
6	インフォームドコンセントと自己決定権		
7	脳死と臓器移植の問題性		
8	終講試験		
使用テキスト： はじめて出会う生命倫理（有斐閣アルマ）		参考書 授業で紹介する	
評価の方法 出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	英語・英会話	年	2年次	単位	1単位	担当	鈴木 伸子 実務経験の有無：無
		次	後期	時間	30時間		
学習のねらい 医療、看護の場面における英語表現の読解力の基礎や、基本的なコミュニケーション能力を学ぶ。							
到達目標 1. 専門分野における英語で書かれた書類等読む能力を向上させる。 2. 医療、看護の場面におけるコミュニケーション能力を身に着ける。							
事前学習 (授業用のファイルを準備してください)							

【学習スケジュール】

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1	Intoroduction Unit 1	講義	
2	Unit 2 Listening speaking & Vocab		
3	Unit 3 Listening speaking & Vocab		
4	Unit 4 Listening speaking & Vocab		
5	Unit 5 Listening speaking & Vocab		
6	Unit 6 Listening speaking & Vocab		
7	Unit 7 Listening speaking & Vocab		
8	Unit 8 Listening speaking & Vocab		
9	中間試験		
10	What are your symptoms?		
11	Have you ever had any serious illnesses?		
12	Take one tablet, four times a day.		
13	How are you feeling today?		
14	Review		
15	終講試験		
使用テキスト： 看護学生のための英語コミュニケーション（南雲堂）		参考書	
評価の方法 中間・終講試験 80% 平常点 20% (-1点ずつの減点法 テキスト忘れ 居眠り等)			

授 業 科 目	解剖生理学 I	年	1 年次	単 位	2 単位	担 当	前田 裕子 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	60 時間		
<p>学習のねらい</p> <p>解剖学は、正常な身体の形態と発生を研究する学問であり、生理学は、正常な生物体の機能について研究する学問である。この二つは基礎医学教育の根幹をなすものであり、看護を学ぶ上でも幅広く深い理解が必要である。</p>							
<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の概要と解剖学的用語を理解する。 2. 人体の各器官系統の構造とその働きの意味を理解する。 							
<p>事前学習</p> <p>テキストを読んでおく</p>							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授業方法	備考
1-2 3-4 5-7 8-10 11-14 15-18 19-22 23-26 27-29 3 0	人体の概要 人体の大要 解剖学的用語 人体とその構成 細胞の構造と増殖 組織の種類とその構成 細胞膜の機能 人格器系 骨の形態と構造 人体各部の骨格 骨の連結 筋系 骨格筋の構造と筋収縮機構 人体各部の筋 血液・間質液・リンパおよび生体防御反応 血液成分と機能、体液の循環と移動、生体防御機構と関連臓器 体液と電解質 体液の組成と pH ホメオスタシス 体液平衡 循環器系 呼吸器系 体温とその調整 終講試験	講義	
使用テキスト： 系統看護学講座 人体の構造と機能 1 解剖生理学 (医学書院)		参考書	
<p>評価の方法</p> <p>出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。(評価の割合は授業の初回に提示する)</p>			

授業科目	解剖生理学Ⅱ	年	1年次	単 位	2単位	担 当	辻内 俊文 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	60時間		
学習のねらい 解剖学は、正常な身体の形態と発生を研究する学問であり、生理学は、正常な生物体の機能について研究する学問である。この二つは基礎医学教育の根幹をなすものであり、看護を学ぶ上でも幅広く深い理解が必要である。							
到達目標 1. 人体の概要と解剖学的用語を理解する。 2. 人体の各器官系統の構造とその働きの意味を理解する。							
事前学習 テキストを見ておく							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考		
1	消化器系	講義			
2	消化管と付属する器官				
3	消化と消化液の分泌				
4-5	吸収の仕組みと調整				
6	泌尿・生殖器系				
7	腎臓、尿路と男性・女性生殖器の位置と構造				
8	尿の生成と排尿の仕組み				
9-10	生殖細胞の形成と成熟及び人体の発生				
11-15	内分泌系 内分泌器官の場所と構造 ホルモンの働きとホメオスタシスの維持				
16-22	神経系 中枢神経と末梢神経 情報処理の働きと情報伝達の仕組みと調節				
23-	感覚器系 皮膚、舌、眼、耳と鼻の構造				
29	外部環境からの情報の取り入れと神経系で処理された感覚について				
30	終講試験				
使用テキスト： 系統看護学講座 人体の構造と機能1 解剖生理学（医学書院）				参考書 授業で紹介する	
評価の方法 出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）					

授業科目	生化学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	中西 真理 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	30 時間		
学習のねらい 生体を作っている物質の構造を知り、食餌性の栄養物質が生命活動の中でどのように変化するかを学ぶ。							
到達目標 1. 生体の主要成分の性質、構造について、および合成・分解経路などの代謝について理解する。 2. 人体を構成している臓器や組織における特有の代謝（栄養）について理解する。							
事前学習 テキストを見ておく							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	生体を構成する物質の構造と性質	講義	
2	(1) 糖質の分類・構造・性質		
3	(2) 脂質の分解・構造・性質		
4	(3) アミノ酸と分類・構造・性質		
5	(4) タンパク質の分類・構造・性質		
6	(5) 核酸の分類・構造・性質		
7	(6) ビタミン		
8	生体内の物質代謝		
9	酵素と補酵素 糖質の代謝		
10	脂質の代謝 アミノ酸の代謝		
11	核酸の代謝 ポルフィリン代謝		
12	その他の生体内物質		
13	ホルモン 体液と血液 免疫		
14	核酸と遺伝		
15	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学講座 人体の構造と機能2 生化学（医学書院）		参考書	
評価の方法 出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	栄養学	年	1年次	単位	1単位	担当	松本 香織 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	15時間		
学習のねらい 生命の維持、成長及び臓器・組織の正常な機能の維持、エネルギー生産のために必要な栄養素とその適正量、合理的な摂取方法について学ぶ。							
到達目標 1. 健康的な生活を営む上で必要な栄養と消化・吸収及び食事と疾病の関わりについて理解する。 2. 食生活が「命の源」であることを踏まえて、よりよく生きることを考える。							
事前学習 特になし							

【学習スケジュール】

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1	栄養素の種類と働き	講義	
2	食事と食品、食物の消化・吸収・代謝		
3	ライフステージと栄養		
4	臨床栄養Ⅰ BMI計算 病院食の紹介		
5	臨床栄養Ⅱ 疾患別栄養管理		
6	臨床栄養Ⅲ とろみ茶 疾患別栄養管理		
7	臨床栄養Ⅳ 嚥下訓練食（キザミ とろみ ミキサー）		
8	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学講座 人体の構造と機能3 栄養学（医学書院） 食品成分表（東京法令出版）		参考書	
評価の方法 出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	看護形態機能学	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	磯垣 純子 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	3 0 時間		
<p>学習のねらい</p> <p>解剖生理学 I・II と合わせて、人体の構造と機能の知識を生活者としての人間にあてはめ、どのようなからだの構造と機能を使って日常生活を営んでいるのかを学び、看護実践に結びつけていくのか理解することが目的である。</p>							
<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命維持にとっての恒常性維持の内容と意義を説明できる。 2. ヘンダーソンの 14 の基本的ニーズの枠組みを使い、どのようなからだの仕組みを使って、日常生活行動を行っているのかを説明できる。 3. 人の 24 時間の生活行動を体がどのように遂行しているか、より健康でいるためにはどうしたら良いのかを考えることができる。 							
<p>事前学習</p> <p>1 年次に学習した解剖生理学 I・II の内容を復習しておく。</p>							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1~2	科目目標・学習の進め方の説明 何のための生活行動か、恒常性維持のための物質の流通と調節機構について、体温、危険回避	講義	
3	課題の説明とグループ分け	個人ワーク	
4~6	ヘンダーソンの 14 の基本的ニーズの枠組みから、どのような仕組みを使って、日常生活行動を行っているのか考える 呼吸・循環 : 息をすること 飲食 : 食べること 排泄 : トイレに行くこと 移動・体位の保持 : 動くこと 睡眠・休息 : 眠ること 衣生活・清潔 : お風呂に入ること 意思表示・コミュニケーション : 話す・聞くこと	G.W	レポ ート 課題 成果物
7~8	成果物のプレゼンテーション	発表	
9	1~8 回の講義のまとめ、理解状況の確認	クイズ形式	
10 ~	自分の日常生活行動から健康を考える	小集団ワーク	
13		講義・G.W	
14 ~	事例をもとに「地域のなかのさまざまな場所で生活する人」の健康レベルに合わせた生活を		成果物
15	整える方法を考える。 全体のまとめ		評価
<p>使用テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの</p>		<p>参考書</p> <p>菱沼典子:「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」, 日本看護協会出版会</p>	
<p>評価の方法:</p> <p>出席状況・グループワークの参加状況・レポート (評価の割合は授業の初回に提示する)</p>			

授業科目	微生物学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	神田 靖士 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	30 時間		
学習のねらい 各種微生物の特性とそれによって起こる感染症及び免疫に関する基礎的な知識を学ぶ。							
到達目標 1. 感染経路、生体の感染防御機構、化学療法、滅菌と消毒について理解することができる。 2. 感染症の治療や院内感染対策について理解できる。							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	微生物学概論	講義	
2	細菌の培養環境と栄養、感染症の種類		
3	免疫（1）抗原と抗体 免疫の種類		
4	免疫（2）液性免疫と細胞性免疫		
5	滅菌と消毒		
6	感染症の治療と対策 抗生物質と化学療法		
7	予防接種 細菌学各論（1）		
8	細菌学各論（2）		
9	細菌学各論（3）		
10	細菌学各論（4）		
11	細菌、クラミジア、リケッチャ各論		
12	ウイルス概論		
13	ウイルス学各論		
14	ウイルス学各論		
15	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学（医学書院）		参考書	
評価の方法 出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	病理学	年	1年次	単位	1単位	担当	辻内 俊文 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	30時間		
学習のねらい 疾病の成り立ちおよび回復過程を理解するため、種々の病態像を把握し、看護の視点から健康問題を幅広い視野で捉える能力を養う。							
到達目標 1. 疾病の成り立ちおよび回復過程について理解することができる。 2. 種々の疾患の概念と病態像について理解することができる。							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	病理序論・病理検査	講義	
2	新生児スクリーニング検査、奇形		
3	黄疸		
4	胆石症、門脈圧亢進、梗塞、血栓		
5	塞栓、D I C		
6	ネフローゼ 炎症		
7	腫瘍（良性・悪性腫瘍 がんの分類）		
8	腫瘍（がんの転移）		
9	消化器疾患（胃潰瘍 ポリープ 胃がん）		
10	消化器疾患（早期胃がん 進行がん スキルス胃がん 大腸がんの発生）		
11	消化器疾患（炎症性腸疾患）		
12	肝疾患（ウイルス性肝炎）		
13	肝疾患（肝硬変 肝がん）		
14	血液の疾患		
15	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学（医学書院）		参考書	
評価の方法 出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	疾病論 I (循環器・ 血液・造血器)	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	辻内 俊文 陰山 克 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	30 時間		
学習のねらい 機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。							
到達目標 1. 循環器、血液・造血器系の正常な構造と機能を理解し、機能障害と回復への過程を理解できる。 2. 主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について理解することができる。							
事前学習 解剖生理の復習							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	心臓の構造と機能および循環器疾患の症状と病態	講義	
2	循環器疾患の診断および治療		
3	虚血性心疾患について		
4	虚血性心疾患について		
5	心不全および血圧異常について		
6	不整脈について		
7	弁膜症・心膜炎・心筋疾患・リンパ系疾患について		
8	先天性心疾患・血管疾患・リンパ系疾患について		
9	まとめ		
10	血液疾患の検査・病態		
11	赤血球系の異常		
12	白血球及び造血器の腫瘍		
13	悪性リンパ腫について		
14	出血性疾患について		
15	終講試験		
使用テキスト： 成人看護学Ⅲ 循環器 血液・造血器（医学書院）		参考書	
評価の方法 出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	疾病論Ⅱ (呼吸器 免疫・アレルギー膠原 病 内科的腎臓含む)	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	栗岡 晴海 栗岡 英行 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	30 時間		
学習のねらい 機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。							
到達目標 1. 呼吸器及び脳・神経系の正常な構造と機能を理解し、機能障害と回復への過程を理解できる。 2. 主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について理解することができる。							
事前学習 解剖生理の復習							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	呼吸器の解剖生理 自覚症状 他覚症状	講義	
2	診断の流れ 検査		
3	検査 治療		
4	外科手術 気道確保		
5	呼吸器に多い疾患		
6	(肺炎 結核 間質性肺炎 喘息		
7	COPD 気胸 肺がん 等)		
8	アレルギー・免疫の仕組み 検査 免疫異常		
9	アレルギー疾患の総論・検査・診断		
10	膠原病 リウマチ性疾患		
11	関節リウマチ		
12	全身性エリテマトーデス 全身性強皮症		
13	内科的腎臓疾患		
14	〃		
15	終講試験		
使用テキスト： 成人看護学2 呼吸器 成人看護学7 脳神経 (医学書院)		参考書	
評価の方法 出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。(評価の割合は授業の初回に提示する)			

授業科目	疾病論Ⅲ (内分泌・代謝 消化器)	年	1年次	単位	1単位	担当	松浦 順平 良元 文弘 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	30時間		
学習のねらい 機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。							
到達目標 1. 内分泌・代謝、消化器系の正常な構造と機能を理解し、機能障害と回復への過程を理解できる。 2. 主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について理解することができる。							
事前学習 解剖生理							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	内分泌・代謝の構造と機能	講義	
2	症状と病態生理		
3	検査（内分泌疾患の検査 代謝疾患の検査）		
4	疾患の理解		
5	内分泌疾患：下垂体前葉・後葉の疾患		
6	甲状腺疾患		
7	代謝疾患：糖尿病 高脂血症 等		
8	消化器の構造と機能		
9	症状と病態生理		
10	検査		
11	疾患の理解 食道の疾患		
12	胃・十二指腸の疾患		
13	腸および腹膜疾患 かんぞう・胆嚢の疾患		
14	膵臓の疾患 急性腹症		
15	終講試験		
使用テキスト： 成人看護学6 内分泌・代謝 成人看護学5 消化器 （医学書院）		参考書	
評価の方法 出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	疾病論Ⅳ (腎・泌尿器 感覚器)	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	吉川聡 山村匡 久門正義 辻村大輔 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	30 時間		
学習のねらい 機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。							
到達目標 1. 腎・泌尿器、感覚器の正常な構造と機能を理解し、機能障害と回復への過程を理解できる。 2. 主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について理解することができる。							
事前学習 解剖生理							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	腎・泌尿器の構造と機能	講義	
2	症状と病態生理 検査 (腎臓疾患の検査 泌尿器疾患の検査)		
3	主な疾患の理解		
4	主な疾患の理解		
5	眼の構造と機能 検査		
6	主な疾患の理解		
7	主な疾患の理解		
8	耳鼻咽喉の構造と機能 検査		
9	主な症状		
10	主な疾患の理解		
11	主な疾患の理解		
12	歯・口腔の構造と機能 検査		
13	主な疾患の理解		
14	主な疾患の理解		
15	終講試験		
使用テキスト： 成人看護学 8 腎泌尿器 成人看護学 13 眼 成人看護学 14 耳鼻咽喉 成人看護学 15 歯		参考書	
評価の方法 出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。(評価の割合は授業の初回に提示する)			

授業科目	疾病論V (運動器 女性生殖器)	年	1年次	単位	1単位	担当	寺西 朋裕 深井 和恵 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	30時間		
学習のねらい 機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。							
到達目標 1. 運動器、女性生殖器の正常な構造と機能を理解し、機能障害と回復への過程を理解できる。 2. 主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について理解することができる。							
事前学習 解剖生理							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	運動器の構造と機能	授業	
2	症状とその病態		
3	疾患の理解 外因性疾患：骨折 脱臼 捻挫および打撲		
4	神経の損傷 筋・腱・靭帯等の損傷)		
5	非外傷性（内因性）の疾患：先天性疾患		
6	骨・関節の炎症性疾患 骨腫瘍		
7	代謝性骨疾患 神経の疾患		
8	脊椎の疾患		
9	上肢及び下肢の疾患 運動器不安定症		
10	女性生殖器の構造と機能 症状とその病態		
11	検査と治療		
12	女性生殖器系疾患の理解：外陰、膣の疾患		
13	子宮の疾患 卵巣の疾患		
14	更年期障害 感染症 不妊		
15	終講試験		
使用テキスト： 成人看護学 10 運動器 成人看護学 9 女性生殖器（医学書院）		参考書	
評価の方法 出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	疾病論VI (脳神経 感染症 感覚器：皮膚)	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	内園知美 栗岡晴海 西脇洋子 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	30 時間		
学習のねらい 機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。							
到達目標 1. 正常な構造と機能を理解し、機能障害と回復への過程を理解できる。 2. 主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について理解することができる。							
事前学習 解剖生理							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	脳・神経の基礎的知識	講義	
2	症状とその病態生理（意識障害、高次脳機能障害）		
3	（運動・感覚機能障害 反射性運動障害 頭蓋内圧亢進症 等）		
4	検査と治療		
5	治療（外科的・内科的）		
6	主な疾患の理解		
7	主な疾患の理解		
8	感染症とは 主な微生物 診断の流れ		
9	感染の診断法 治療の流れ		
10	疾患の理解：気道 循環 食中毒 消化器 性感染症 尿路		
11	寄生虫 ウイルス感染症 真菌 HIV 新興感染症 耐性菌		
12	皮膚の形態と機能 主要症状と病態生理		
13	検査方法と留意点 主な疾病の理解：湿疹 皮膚炎 皮膚感染症		
14	腫瘍 熱傷		
15	終講試験		
使用テキスト： 成人看護学 10 運動器 成人看護学 9 女性生殖器（医学書院）		参考書	
評価の方法 出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	薬理学	年	1年次	単 位	1単位	担 当	大西 良治 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	30時間		
学習のねらい 臨床において安全に薬物を投与し、その経過を捉えるための基礎を学び、薬物療法を受ける対象の理解、与薬の技術や服薬指導につなげる。							
到達目標 1. 薬の作用機序、有害作用および薬物の管理について理解する。 2. 薬物の治療効果を高め、安全な与薬管理・服薬指導をするうえでの留意点を理解する。							
事前学習 特になし							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1 2~3 4 5 6 7 8 9~11 12~13 14 15	薬理学総論 薬物の作用するしくみ 薬物の体内挙動（薬物動態学） 薬理学各論 抗感染症薬 抗がん薬 免疫治療薬 抗アレルギー薬・抗炎症薬 末梢での神経活動に作用する薬物 中枢神経系に作用する薬物 循環器系に作用する薬物 代謝障害 終講試験	講義 G.W	
使用テキスト 系統看護学講座 薬理学 (医学書院)		参考書 必要時提示	
評価の方法：終講試験、課題提出などによって総合的に評価する（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	公衆衛生	年	2年次	単位	1単位	担当	畠山 雅行 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	30時間		
学習のねらい 地域住民の生（生命・生活・生産）を幅広い学問体系からなる公衆衛生を理解し、地域の健康及び個人の健康の維持増進を目指す組織的な取り組みである種々の公衆衛生活動を理解する。							
到達目標 1. 個人及び集団における健康の意義を理解する。 2. 健康の保持増進のための組織的な保健活動について理解する。							
事前学習 特になし							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考		
1	公衆衛生学総論	講義 G.W			
2	公衆衛生の活動対象				
3~4	公衆衛生のしくみ				
5~7	集団の健康をとらえるための手法				
8~10	環境と健康				
11	感染症とその予防対策				
12	国際保健、災害保健				
13	地域における公衆衛生の実践				
14	学校・職場と保健				
15	終講試験				
使用テキスト 系統看護学講座 公衆衛生 (医学書院)				参考書 必要時提示	
評価の方法：終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）					

授業科目	運動科学	年	1年次	単位	1単位	担当	富田 寿美恵 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	20時間		
学習のねらい 健康づくりのための運動の意義を理解し、ライフステージに応じたスポーツが実践できる基礎を学ぶ。							
到達目標 1. 運動生理学の基礎が理解できる。 2. 健康生活を支える運動の意義を理解し、ライフステージに合わせた個人及び集団の健康づくりが理解できる。 3. 運動をとおして自己の体力の向上と健全な身体の発達を図る。							
事前学習 特になし							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考	
1	健康の概念、現代社会と健康	講義		
2	健康づくり運動の実際			
3	運動疫学の基礎			
4	健康づくり施策			
5	健康づくり運動の基礎（有酸素性運動の基礎／他） ライフステージに応じたスポーツ	DVD 学習		
6～	実技			
9	ストレッチ、ソフトバレー、バスケットボール、卓球 レクリエーション	実技		
10	終講試験			
使用テキスト 健康づくりのための運動科学 化学同人				参考書 必要時提示
評価の方法：筆記試験（評価の割合は授業の初回に提示する）				

授業科目	関係法規	年	2年次	単位	1単位	担当	青木 千鶴香 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	30時間		
<p>学習のねらい 法律とはなじみにくく難解なものだと敬遠されがちであるが、学生が身近に興味を持つことができるよう学んでゆく。</p>							
<p>到達目標 健康な生活を維持するために必要な法規を修得させると共に、特に保助看法については看護職者の役割と法的責任について理解することができる。</p>							
<p>事前学習 テキストを読んでおく</p>							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	法規の基礎知識	講義	
2	保健師助産師看護師法	講義	
3	研修	講義・GW	
4	研修	講義・GW	
5	発表 人に関する法律	講義・GW	
6	発表 物・場所に関する法律	講義・GW	
7	発表 介護保険法	講義・GW	
8	発表 特別な配慮を必要とする人に関する法律	講義・GW	
9	発表 社会的弱者政策に関する法律	講義・GW	
10	療養上の世話 診療の補助の判例	講義	
11	法律の概要	講義	
12	研修	講義・GW	
13	看護職の働き方改革	講義	
14	まとめ	講義	
15	試験	講義／試験	
<p>使用テキスト わかりやすい関係法規（ヌーヴェルヒロカワ）</p>			<p>参考書 資料作成より</p>
<p>評価の方法：終講試験（小テスト加味）（評価の割合は授業の初回に提示する）</p>			

授 業 科 目	治療総論 I 食事療法 4 時間 放射線 10 時間 臨床検査 16 時間	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	三井悦三 坂本琢 大池秀子 実務経験の有無：有
	次	後期	時 間	30 時間			
学習のねらい 専門職種の役割や、疾病の回復を促進する各治療の基本的理論と、生活の視点に立った各種の治療方法の実際を学ぶ。							
到達目標 1. 疾病の回復のための栄養食事療法について根拠と方法を理解することができる。 2. 放射線治療の実際と特徴、放射線による障害と防護を理解することができる。 3. 検査値の正常・異常が判断でき、ヘルスアセスメントに活用できる基礎知識を学ぶ。 4. 検査内容と疾患とのつながりを理解することができる。							
事前学習 特になし							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1~2 3 4 5~6 7 8 9~11 12~14 15	疾患別の栄養食事療法 放射線療法の目的とその適応 放射線療法の種類と特徴 放射線療法の実際 放射線障害と放射線防護 臨床検査とその役割 検体検査 生体検査 終講試験	講義	
使用テキスト 系統看護学講座 臨床検査 (医学書院) 新体系 看護学全書 治療法概説 (メヂカルフレンド社)		参考書 必要時提示	
評価の方法：終講試験、課題提出などによって総合的に評価する（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	治療総論Ⅱ 運動・リハビリテーション 14時間	年次	1年次	単位	1単位	担当	赤松 眞吾 松浦 純平 実務経験の有無：有
	手術療法16時間		後期	時間	30時間		
学習のねらい 専門職種の役割や、 疾病の回復を促進する各治療の基本的理論と、生活の視点に立った各種の治療方法の実際を学ぶ。							
到達目標 1. 機能障害に合わせた運動・リハビリテーションについて理解することができる。 2. リハビリテーションに関係する職種を学び、協働でその人の生活を支える連携が理解できる。 2. 手術療法の特徴と身体侵襲、麻酔法、外科的治療の実際について理解することができる。							
事前学習 特になし							

【学習スケジュール】

授業回数	授業内容	授業方法	備考		
1	運動療法とは	講義			
2	運動療法の種類と特徴				
3~4	運動療法の実際				
5	リハビリテーションとは				
6~7	リハビリテーションの種類と特徴				
8	手術療法の目的と意義				
9	外科手術手技・処置の基本				
10	麻酔の知識				
11	手術室の管理				
12~13	救急医療とその実際				
14	臓器移植				
15	終講試験				
使用テキスト 系統看護学講座 臨床外科看護総論 臨床外科看護各論 (医学書院) 新体系 看護学全書 治療法概説 (メヂカルフレンド社)				参考書 必要時提示	
評価の方法：終講試験、課題提出などによって総合的に評価する（評価の割合は授業の初回に提示する）					

授業科目	看護学概論	年	1年次	単位	1単位	担当	青木 千鶴香 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	30時間		
学習のねらい 看護を志す初学者としての、基本的な考え方について学ぶ。							
到達目標 1) 看護とは何か、看護師とはどのような職業かについて理解することができる。 2) 人を世話するにあたって基本となる姿勢、考え方やどのような援助が人のためになり、または人のためにならないかなどについて理解する。							
事前学習 テキストを読んでおく							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	看護とは何か	講義	
2	看護とは何か … 私の看護観	講義	
3	看護の継続性と情報共有	講義	
4	看護の継続性と情報共有 … 事例	講義	
5	看護の対象の理解 … 人間のこころとからだ	講義	
6	看護の対象の理解 … 人間の「暮らし」の理解	講義	
7	国民の健康・生活の全体像の把握 … 健康のとらえ方	講義	
8	国民の健康・生活の全体像の把握 … 国民のライフサイクルと健康・生活	講義	
9	看護の提供者 … 職業としての看護	講義	
10	看護の提供者 … 看護職の資格と養成にかかわる制度	講義	
11	看護における倫理	講義	
12	看護における倫理 … 看護実践における倫理問題への取り組み	講義	
13	看護の提供のしくみ	講義	
14	広がる看護の活動領域	講義	
15	まとめ 終講試験	講義／試験	
使用テキスト 『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(1) 看護学概論』 医学書院		参考書 必要時、授業で紹介する	
評価の方法：終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	基礎看護技術論 I (技術の概論)	年	1 年次	単位	1 / 3 単位	担当	大池秀子 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	10 時間		
学習のねらい 「看護」における「技術」とは何かについて考察する。							
到達目標 1. 看護技術を学ぶにあたり「技術とは何か」について考えることができる。							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	シラバスの説明 一看護場面よりの考察	授業	
2	技術とは何か	授業	
3	看護技術の特徴	授業	
4	看護技術の範囲	授業	
5	看護技術を適切に実践するための要素	授業	
使用テキスト： 基礎看護技術論 I (医学書院)			参考書 「看護覚え書」
評価の方法 出席状況、授業態度、終講試験を総合して評価します。(評価の割合は授業の初回に提示する)			

授 業 科 目	基礎看護技術論 I (コミュニケーション)	年	1 年次	単 位	2 / 3 単位	担 当	大池 秀子 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	20 時間		
学習のねらい コミュニケーションの特徴を理解し、その意義と目的から看護に必要なコミュニケーションスキルを身につける							
到達目標 1. コミュニケーションの特徴を理解し、その意義と目的について説明できる 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解して、メッセージの適切な伝達方法を学ぶ 3. コミュニケーションの基本的な方法と種類を学び、実践できる 4. コミュニケーションに障害がある人への対応を学ぶ							
事前学習							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	コミュニケーションってなに？ (コミュニケーションの意義と目的) コミュニケーションに必要な材料 (構成要素と成立過程) コミュニケーションの種類 (言語的・非言語的コミュニケーション) 看護のコミュニケーションを身につけよう① (傾聴、共感的理解、話の聴き方) 看護のコミュニケーションを身につけよう② (自己決定の支援、患者理解と言葉かけ) 看護のコミュニケーションを身につけよう③ (コミュニケーション 障害がある人の特徴、コミュニケーションと人間関係) コミュニケーション講座 終講テスト・解説	講義	シブキ説明 自己紹介 ロールプレイ ラベルワーク 講義 ロールプレイ 講義 ロールプレイ 講義 ロールプレイ 講義 KEC 教育グループより
使用テキスト： 基礎看護技術 I (医学書院)		参考書 老年看護技術 (メジカルフレンド社) 看護のためのコミュニケーションと人間関係 (中央法規)	
評価の方法 終講テスト 70 点満点			

授 業 科 目	基礎看護技術論Ⅱ 看護過程	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	平野 朋子 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	3 0 時間		
学習のねらい 看護を系統的に実践するために必要な思考過程を理解し、ヘンダーソンの枠組みを用いた看護過程の展開技術を身につける。							
到達目標 1.看護過程とは何か理解できる 2.看護過程の構成要素を理解できる 3.ヘンダーソン看護理論の14項目を理解できる 4.ヘンダーソン看護理論に基づき看護過程の事例展開ができる							
事前学習 前期で学んだ看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ.Ⅲ、生活援助技術論Ⅰ.Ⅱ.Ⅲを復習しておく							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1~2	看護過程とは（構成要素） 看護過程の基盤となる考え方 （問題解決過程、クリティカルシンキング倫理的配慮と価値判断 リフレクション） 看護理論	講義	
3~9	事例展開演習（COPD） 情報の分析・解釈（ヘンダーソン看護理論の14項目）	事例展開 G.W	
10~12	関連図		
13~15	看護計画の立案・実施・評価		
使用テキスト 基礎看護技術Ⅰ.Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座 呼吸器（医学書院）		参考書 必要時提示	
評価の方法：課題の提出状況/内容、授業への出席/参加度、試験による総合評価とする（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	基礎看護学技術論Ⅲ フィジカルアセスメント	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	中山 恵美 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	30 時間		
学習のねらい 看護実践の基礎となる基本的技術を身につけ、さらに対象に必要な看護が提供できるためのフィジカルアセスメントの方法について理解できる。							
到達目標 1. 看護におけるフィジカルアセスメントの必要性と方法を理解し、実践できる能力を養う。 2. 原理、原則に基づき、正確なバイタルサイン測定知識・技術が修得できる。							
事前学習 特になし							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考		
1 回目 ～ 8 回目	1) ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントとは 2) 体温、呼吸、脈拍、血圧測定について 3) 意識レベル、瞳孔測定について	講義 演習			
9 回目 ～ 11 回目	4) 呼吸・循環系のフィジカルアセスメント 5) 消化器のフィジカルアセスメント 6) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントについて 7) 身体計測について				
12 回目 ～ 14 回目	8) バイタルサイン測定演習 9) フィジカルアセスメント演習 10) 身体計測演習				
使用テキスト 基礎看護学技術 I (医学書院)				参考書 フィジカルアセスメントが見える (メディックメディア)	
評価の方法： 授業、演習態度・出席状況・レポート・終講試験を総合して評価する。(評価の割合は授業の初回に提示する)					

授業科目	生活援助技術論 I 環境	年	1 年次	単 位	0. 6 単位	担 当	大森かほり 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	18 時間		
学習のねらい あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎援助技術について、知識・技術を身につける							
到達目標 療養生活の環境を理解し、病室・病床の環境のアセスメントができる 看護における環境調整の意義と方法を理解できる 病床の環境整備、ベッドメイキング、リネン交換ができる							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	環境とは、療養生活の環境	講義	
	病室の環境のアセスメントと調整		
2	ベッドメイキングについて	講義	
3	シーツのたたみ方、下シーツの作り方	演習	
4	ベッドメイキングのデモンストレーション	演習	
5	ベッドメイキング	演習	
6	臥床患者のリネン交換（デモンストレーション含む）	講義・演習	
7	病床環境について考える	演習・GW	
8	環境整備	演習・GW	
9	終講試験		
使用テキスト 医学書院系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II			参考書
評価の方法： 終講試験（60 点）			

授業科目	生活援助技術論 I 食生活	年	1 年次	単位	0. 4 単位	担当	森 都 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	12 時間		
学習のねらい あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎援助技術について、知識・技術を身につける							
到達目標 対象の食事・栄養摂取のアセスメントができ、適した食事・口腔の清潔方法ができる 摂食・嚥下訓練について理解することができる 非経口的栄養摂取について理解することができる							
事前学習 摂食・嚥下のメカニズム							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	食事援助の基礎知識	講義・GW	
2	医療施設で提供される食事の種類と形態 食事摂取の介助	講義	
3	摂食・嚥下訓練 口腔ケア	講義	
4	非経口栄養摂取の援助 経管栄養 中心静脈栄養法	講義	
5.6	食事の援助と口腔ケア演習	演習	
使用テキスト 医学書院系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II			参考書
評価の方法： 終講試験（40点）			

授 業 科 目	生活援助技術論Ⅱ 活動と休息	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	深井 和恵 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	30 時間 (20 時間)		
学習のねらい ・あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎的援助技術について、知識・技術を身につける。 ・活動と休息の意義を理解し、安全・安楽な援助技術を修得する。							
到達目標 1. 活動制限による身体的・精神的・社会的影響を理解する。 2. 睡眠のメカニズムを理解し、睡眠を妨げる要因・身体的変化を理解する。 3. あらゆる健康レベルにある対象の活動と休息の援助方法を理解する。 4. 安全・安楽な罨法を実施できる。							
事前学習							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	・活動と休息の意義	講義	
2	・基本的活動の援助 良い姿勢、体位、移動、ボディメカニクス	講義	
3	・体位変換・ポジショニング	演習	
4	・移乗・移送・歩行の援助	講義	
5、6、	・車椅子・ストレッチャー移乗と移送	演習	
7	・睡眠・休息の援助	講義	
8	・罨法	講義	
9	・温罨法・冷罨法	演習	
10	・まとめ	講義	
使用テキスト 系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院		参考書	
評価の方法： 出席状況・課題・筆記試験（筆記試験の採点は「活動と休息」70%、「排泄」30%合わせて100%とする。評価の割合は授業の初回に提示する。）			

授業科目	生活援助技術論Ⅱ 排泄	年	1年次	単位	1単位	担当	深井 和恵 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	30時間 (10時間)		
学習のねらい 対象における排泄の意義を学び、排泄に関する生活行動を整えるための技術を学ぶ。							
到達目標 1. あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎的援助技術について、知識を習得する。 2. 排泄の意義を理解し、対象に応じた援助方法を考え、実施できる							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1 2 3 4 5	1) 排泄援助技術 (1) 排泄の意義と重要性 (2) 排泄の援助に必要な知識 (3) 排泄の観察 (4) 排泄の援助技術 ・グリセリン浣腸と床上排泄介助 終講試験	講義 講義 講義 講義・演習 筆記試験	
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院		参考書 必要時、授業中に掲示する	
評価の方法： 出席状況・課題・筆記試験（筆記試験の採点は「活動と休息」70%、「排泄」30%合わせて100%とする。評価の割合は授業の初回に提示する。）			

授 業 科 目	生活援助技術論Ⅲ 清潔	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	川島 千鶴 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	30 時間		
<p>学習のねらい</p> <p>対象に応じた日常生活援助（清潔・衣生活）の方法について学ぶ。日常生活援助に必要な知識・技術・態度を学修する。</p>							
<p>到達目標</p> <p>1) 身体の清潔の意義と重要性について理解する。 2) 皮膚・粘膜の生理的知識に基づいた清潔の方法を理解する。 3) 清潔の方法による身体への負担の違いを理解する。 4) 患者の安全・安楽を考え、清潔の援助を実践することができる。</p>							
<p>事前学習</p> <p>なし</p>							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	・ 清潔援助の基礎知識（皮膚・粘膜の構造と機能）	講義	
2	・ 清潔の意義と重要性について	講義	
3	・ 衣服を用いることの意義と身体の清潔の援助方法	講義	
4	（入浴・シャワー浴・全身清拭・洗髪・手浴・足浴・陰部洗 浄）		
5～14	・ お湯に触れてみよう（手浴の実施）	演習	
	・ 洗髪・整容・全身清拭・足浴・寝衣交換・陰部洗浄の演習	演習	
15	・ 筆記試験（60分）		
<p>使用テキスト：</p> <p>教科書 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院）</p>		<p>参考書：</p> <p>根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院</p>	
<p>評価の方法：</p> <p>プリントの提出状況</p> <p>筆記試験・課題レポート・授業（演習）に取り組む態度（評価の割合は授業の初回に提示する）</p>			

授 業 科 目	診療援助技術論 感染	年	1 年次	単 位	0.3 単位	担 当	廣瀬 智香子 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	10 時間		
学習のねらい 感染は完全に予防することはできないが、正しい知識と技術とそれらを適切なタイミングで活用することで、感染のリスクを最小限にとどめることはできる。こうした感染管理の考え方にに基づき、正しく適切に基本的感染予防技術が選択・実践できるようにする。							
到達目標 1. 感染予防の重要性を理解し、看護師ができる対応策を学ぶ 2. 標準予防策および感染経路別予防策を学び、適切に選択・実践できる 3. 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識を学び、基本的な無菌操作が実践できる 4. 感染性廃棄物の取り扱い方法と実際の対策について理解する。							
事前学習 微生物学や病理学での免疫について復習する。 基礎看護技術 I、第 2 章・感染防止の技術を一読しておく。							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	感染予防の基礎知識	講義	
2	標準予防策について	講義・演習	衛生的な手洗い
3	感染経路別予防策について	講義	
4	洗浄・消毒・滅菌と無菌操作	講義・演習	無菌操作と滅菌手袋
5	感染性廃棄物の取り扱い	講義	ガウン・手袋の着脱法
使用テキスト 基礎看護技術 I (医学書院)		参考書 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術～第 2 版～ (医学書院)	
評価の方法： 終講試験と演習の参加度など総合的に評価する。(評価の割合は授業の初回に提示する)			

授 業 科 目	診療援助技術論 診療・検査	年	1年次	単 位	0.3単位	担 当	川島 千鶴 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	8時間		
学習のねらい 診療に伴う看護を行う際に基本的な診療援助技術について学修する。							
到達目標 1) 診察の介助の目的を理解する。 2) X線撮影・CT・MRI・内視鏡検査・超音波検査肺機能検査・核医学検査について理解し、それぞれの検査時の看護を学ぶ。 3) 胸腔穿刺・腹腔穿刺・腰椎穿刺・骨髄穿刺の概要を知り、介助の実際を学ぶ。 4) 血液検査、尿検査、便検査、喀痰検査について理解し、それぞれの検査時の看護の実際を学ぶ。 5) 生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を理解する。 6) 心電図検査、心電図モニター、SPO2モニター、血管留置カテーテルモニターについて理解し、看護の実際を学ぶ。							
事前学習 なし							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授業方法	備考
1 ~ 2	診察・検査・処置の介助技術	講義	
3 4	症状・生体機能管理技術 静脈血採血	演習	
使用テキスト： 系統看護学講座 専門分野1 基礎看護技術II 医学書院		参考書： 看護がみえる Vol2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA	
評価の方法： 試験・学内演習の記録と態度・授業態度を総合的に評価する。(評価の割合は授業の初回に提示する)			

授業科目	治療処置別看護	年	1年次	単 位	1単位	担 当	森 都 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	30時間		
<p>学習のねらい</p> <p>あらゆる対象に共通する経過について理解し、看護の視点を養う。</p> <p>あらゆる対象に共通する治療・処置別看護について学び、看護実践力の基礎技術とする。</p>							
<p>到達目標</p> <p>1. 看護における経過の概念と、各経過における看護の特徴を理解する。</p> <p>2. 主な治療処置別看護について学び、基本的な技術を習得する。</p>							
<p>事前学習</p> <p>診療援助技術論について復習しておく</p>							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1～2	経過に基づいた看護	講義	
3～	治療処置別看護 輸液療法 創傷処置 身体侵襲を伴う検査 酸素吸入 排痰ケア 吸引 持続吸引（胸腔ドレナージ） 吸引	講義 演習	
14	救命救急処置技術（一次救命処置） 死の看取りの援助（エンゼルケア含む）		
15	終講試験		
使用テキスト 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）			参考書
<p>評価の方法：</p> <p>出席状況・演習の参加状況・レポート・終講試験を総合して評価する（評価の割合は授業の初回到に提示する）</p>			

授 業 科 目	症状別看護	年	2年次	単 位	1単位	担 当	深井 和恵 廣瀬 智香子 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	30時間		
<p>学習のねらい</p> <p>疾患等により、対象が知覚する様々な機能障害に関連した症状の意味と、看護上のニーズに影響及ぼす機序を理解し、症状緩和のための援助技術を実践できる能力を習得する。</p>							
<p>到達目標</p> <p>1) 主要な症状の定義、発生機序、病態を説明できる。 2) 疾患に関連した症状が生活に影響を及ぼす過程を理解する事ができる。 3) 症状を軽減するための援助方法を理解し実践ができる。</p>							
<p>事前学習</p> <p>専門分野 I での基礎看護技術の復習</p>							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1回 ～ 10回	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱のある患者の看護 ・ショック状態にある患者の看護 ・浮腫のある患者の看護 ・褥瘡のある患者の看護 ・貧血のある患者の看護 ・意識障害のある患者の看護 ・呼吸困難のある患者の看護 ・血圧異常のある患者の看護 ・排泄障害のある患者の看護 ・疼痛のある患者の看護 	<p>講義</p> <p>演習</p>	
11回 ～ 14回 15回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例による看護実践の展開 ・終講テスト 	<p>協同学習</p> <p>技術演習</p>	
<p>【使用テキスト】</p> <p>症状別看護過程（医学書院）</p> <p>臨床看護総論（医学書院）</p>		<p>参考書</p> <p>必要時提示</p>	
<p>評価の方法：</p> <p>終講テスト・TBLによるピア評価（評価の割合は授業の初回に提示する）</p>			

授業科目	看護研究概論	年	2年次	単位	1単位	担当	平野 朋子 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	15時間		
<p>学習のねらい</p> <p>看護研究のプロセスおよび事例研究について教授し、看護事象を科学的根拠に基づいて分析し、考察するための基礎的な知識を養う。</p>							
<p>到達目標</p> <p>1.看護実践における看護研究の役割について理解する。 2.看護研究のプロセスおよび事例研究について理解する。 3.看護技術を科学的根拠に基づき理論的に分析し、より良い方法を考察することができる。</p>							
<p>事前学習</p> <p>特になし</p>							

【学習スケジュール】

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1	看護研究の意義と目的 研究のプロセス 研究デザイン 研究計画書	講義・演習	
2	倫理上の問題 データ収集法 データ分析法 論文構成 文献検索 文献の活用 ケーススタディとは	講義	
3	ケースの決定 文献検索 研究計画書の作成	GW	
4～	ケースの作成	GW	
5			
6	抄録の作成 発表原稿の作成	GW	
7	発表準備	GW	
8	発表 まとめ		
<p>使用テキスト</p> <p>黒田裕子の看護研究 Step by Step (医学書院)</p>			<p>参考書</p>
<p>評価の方法：</p> <p>提出物の提出状況・内容、グループワークでの貢献度、出席状況を総合的に評価する。(評価の割合は授業の初回に提示する)</p>			

授業科目	地域環境論	年	1年次	単位	1単位	担当	平野 朋子 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	15時間		
<p>学習のねらい</p> <p>地域の特性や、地域での様々な場において生活する人々とその家族について理解し、その人らしい暮らしを支える看護を考えるために必要な基本姿勢について学ぶ。</p>							
<p>到達目標</p> <p>1. 地域の特性について理解することができる。 2. 様々な生活の場について理解し、暮らしを支える看護について考えることができる。</p>							
<p>事前学習</p> <p>「生駒市」や「四条畷市」のホームページを見ておく。</p>							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	「生駒市」や「四条畷市」について知る。	GW	
2			
3	「生駒市」や「四条畷市」について発表	GW	
4	「生駒市」や「四条畷市」の地域調査の準備		
5	「生駒市」や「四条畷市」の地域調査		
6		GW	
7	調査結果のまとめ		
8	発表		
使用テキストなし			
参考書			
<p>評価の方法：</p> <p>出席状況・グループワークの参加状況・レポート（評価の割合は授業の初回に提示する）</p>			

授業科目	地域・在宅看護概論	年	2年次	単位	1単位	担当	大池秀子 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	15時間		
学習のねらい 在宅看護を必要とする地域で生活する人とその家族の特徴を理解する。 地域で生活する・療養する人とその家族を支える保健医療福祉についての知識を学ぶ。							
到達目標 1. 在宅看護の特徴・役割や昨日について述べられる。 2. 在宅看護における対象と目的・活動の特徴について理解できる。 3. 在宅看護における看護師の役割と機能について理解できる。 4. 在宅看護における基本的理念と倫理的思考や概念について理解できる。							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1	1. 在宅看護の目的と特徴 ①在宅看護の目指すもの ②在宅看護における看護師の役割	講義	
2	2. 在宅看護の対象者 ①対象者の特徴 ②住まい方と健康 ③家族	講義	
3	3. 在宅療養の支援 ①在宅看護の提供方法 ②療養の場の移行	講義	
4～5	4. 在宅看護における法令・制度とその活用	講義	
6～7	5. 在宅看護の展開 ①在宅看護過程のポイント ②在宅看護過程の展開方法 ③療養上のリスクマネジメント④在宅看護における権利保障	講義 1	
8	終講試験		
使用テキスト： 在宅看護論（医学書院）			
参考書			
評価の方法 出席状況、授業態度、レポート、終講試験を総合して評価します。（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	地域・在宅看護実践論 I	年次	2年次	単位	1単位	担当	高山 雅子 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	30時間		
学習のねらい							
<ul style="list-style-type: none"> 暮らしの場で行われる日常生活援助技術および医療管理を必要とする地域で生活する人々とその家族への看護について学ぶ。 地域・在宅看護に必要な訪問マナーおよびコミュニケーション技術について学ぶ。 							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 在宅療養における日常生活援助および医療管理の実際について理解できる。 地域・在宅看護に必要な訪問マナーおよびコミュニケーション技術を身につける。 							
事前学習							
特になし							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	在宅看護におけるコミュニケーション・訪問マナー	講義	
2	食生活・嚥下に関する援助	講義	
3	排泄に関する援助	講義	
4	移動・移乗に関する援助	講義	
5	清潔に関する援助	講義・演習	
6	服薬に関する援助 在宅における医療管理	講義	
7	①褥瘡の予防とケア	講義	
8	②尿道留置カテーテル、ストーマ（人工肛門・人工膀胱）	講義	
9	③経管栄養法	講義	
10	④在宅中心静脈栄養法（HPN）	講義	
11	⑤非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）	講義	
12	⑥在宅酸素療法（HOT）	講義	
13	⑦在宅人工呼吸療法（HMV）	講義	
14	⑧疼痛緩和	講義	
15	終講試験		
使用テキスト 地域・在宅看護論（医学書院）			参考書
評価の方法： 終講試験にて評価する。			

授業科目	地域・在宅看護実践論 II	年	2年次	単 位	1単位	担 当	平野 朋子 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	30時間		
学習のねらい							
<ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活している人々とその家族や生活背景などをアセスメントし、必要な看護を考える能力を養う。 ・地域で生活し続けることを支援するための社会資源の活用について考える能力を養う。 							
到達目標							
<p>1.地域で生活しながら療養する人々とその家族の看護に必要なアセスメントについて理解することができる。</p> <p>2.地域で生活しながら療養する人々とその家族に必要な健康レベルに応じた看護を考えることができる。</p> <p>3.地域で生活し続けることを支援するための社会資源の活用について考えることができる。</p>							
事前学習							
特になし							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	地域・在宅看護過程の展開のポイント	講義	
2	地域・在宅看護の介入時期別の看護の実際	講義	
3	認知症状のみられる療養者とその家族への援助	講義	
4 5	がん終末期にある療養者とその家族への援助	講義・DVD	
6	統合失調症の療養者とその家族への援助	講義	
7	心筋梗塞の既往のある療養者とその家族への援助	講義・GW	
8	パーキンソン病・ALSの療養者とその家族への援助	講義	
9	脳卒中後遺症のある療養者とその家族への援助	講義	
10	糖尿病の療養者とその家族への援助	講義・GW	
11	医療的ケア児とその家族への援助	講義	
12	COPDの療養者とその家族への援助	講義	
13	感染症のある療養者とその家族への援助	講義	
14	在宅療養・地域包括ケアシステムにおける災害対策	講義・DVD	
15	終講試験		
使用テキスト 地域・在宅看護論（医学書院）			参考書
評価の方法： 終講試験、提出物の提出状況・内容、グループワークでの貢献度、出席状況を総合的に評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	地域・在宅看護実践論 Ⅲ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	平野 朋子 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	15時間		
<p>学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して、地域で生活しながら療養する人々とその家族の意向や希望を中核とした「目標志向型思考」で対象を捉え、個別性を重視した看護を考える能力を養う。 ・地域で生活するあらゆる年齢層、様々な健康レベルにある人々を包括的に支援する「地域共生社会における包括的ケア」という視点で考える能力を養う。 							
<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地域・在宅看護における看護過程の展開の方法を理解することができる。 2.地域で生活しながら療養する人々とその家族の意向や希望に寄り添った看護援助を考えることができる。 3.地域で生活するあらゆる年齢層、様々な健康レベルにある人々が受けている保健・医療・福祉の支援活動、多職種の連携、社会資源の繋がりを地域関連図に表すことができる。 							
<p>事前学習</p> <p>事例に関する学習</p>							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	地域・在宅看護論の看護過程の展開の進め方について	講義	
2	地域・在宅看護過程展開のポイントについて		
3	事例の紹介	個人ワーク	
4	情報の整理		
5	情報の解釈・分析	個人ワーク	
6	全体像の把握	個人ワーク	
7	訪問記録の書き方	講義	
8	地域関連図の書き方	個人ワーク 講義・GW	
使用テキスト 地域・在宅看護論（医学書院）		参考書	
<p>評価の方法：</p> <p>提出物の提出状況・内容、グループワークでの貢献度、出席状況を総合的に評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）</p>			

授業科目	チーム医療論	年	2年次	単位	1単位	担当	大池 秀子 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	15時間		
学習のねらい 地域包括ケア・地域共生社会の実現のため、多様な場で暮らす、さまざまなライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る保健・医療・福祉の提供にむけて、お互いの職種の特性を活かしながら、対象の目標達成、課題解決に向けてよりよい方法をともに検討し、実現をめざす能力を養う。							
到達目標 1. 事例を通して、他職者の役割・機能の理解を深め、多職種連携について考えるとともに看護師の役割を考えることができる。							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1	科目目標・学習の進め方の説明 連携事例の検討	講義	
2	他職者の役割と機能の理解 看護師の役割についての考察	グループワーク	
3～5	他職種の専門職者より役割や機能について学ぶ ・薬剤師 ・診療放射線技師 ・管理栄養士 ・理学療法士 ・作業療法士	講義	
6～8	他職の専門学校生(理学療法士)とのそれぞれの立場より事例への援助について意見交換し、グループ発表する。	グループワーク 発表	事例の共有
使用テキスト			
参考書			
評価の方法： 出席状況・グループワークの参加状況・レポート（他職種者とのワークより学んだこと） （評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	成人看護学概論・保健論	年	1年次	単位	1単位	担当	磯垣 純子 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	15時間		
学習のねらい 成人期にある対象を深く広く理解し、成人看護に有用な理論ならびに概念を学び、看護に応用する能力を養う。							
到達目標 1. 成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴とその発達課題が理解できる。 2. 成人期にある人を取り巻く社会と健康に関する動向、健康問題の特徴が理解できる。 3. 成人期にある人の健康状態や健康問題に対応した基本的な考え方や方法が理解できる。 4. 成人期にある人の健康問題を明らかにし、健康の保持増進に努めることができる。							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1	授業の進め方：プロジェクト学習について 成人期にある人の理解 ※5~6名の編成にて、7グループにわかれる (青年期2G 壮年期3G 向老期2G)	講義 G.W	
2~3	青年期・壮年期・向老期の特徴 ※グループでの発表	成果発表	
4~5	成人期の健康特性 ①成人期における健康障害の特徴 ②保健・医療・福祉システム ③1次、2次、3次予防の現状と対応	講義 G.W	
6~7	健康生活に適応・維持する看護、健康教育 ①ヘルスプロモーション ②アンドラゴジー	講義 ワークシート	
8	終講試験		
使用テキスト 系統看護学講座 成人看護学概論・保健論 (医学書院)		参考書 必要時提示	
評価の方法： 筆記試験（80点）プレゼンテーション（10点）ポートフォリオ（10点）			

授 業 科 目	急性期看護論	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	有川 万里子 大森 かほり 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	30 時間		
<p>学習のねらい</p> <p>生命の危機や心理的危機に遭遇した成人の身体的、精神的、心理的影響を理解し、急性期から回復期へと危機を脱する為に必要な看護について学修する。さらに、手術等により救急看護を必要とする対象への診療の介助、看護技術を理解し、いのちを救うために協働する医療チームの特性と多職種連携について学修する。</p>							
<p>到達目標</p> <p>1. 生命の危機的状況になった成人の身体的、精神的、社会的影響が理解できる。 3. 急激な変化をもたらす主要な疾患や感染症の症状、検査、治療（手術を含む）、看護を理解する。 4. 急性期における医療チームメンバーの特性と関連する多職種連携について理解できる。</p>							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1～4 5～8	1) 急性期看護の概念、特徴について ①急性期の主要症状とメカニズム ②急性期看護に必要な理論 ③ICU の看護について 2) 感染症患者の看護 3) 消化管疾患患者の看護（潰瘍性大腸炎・クローン病） 4) 手術を受ける患者の看護 ①手術を受ける患者、家族の特徴 ②術前、術中、術後の看護 ③麻酔、外科的侵襲による生体反応 ④手術後の回復を促進するための看護 ⑤社会復帰への援助	講義 演習	
9～14	5) 手術を受ける患者の看護の実際 ①乳房切除術を受ける患者の看護（乳がん） ②肺切除術を受ける患者の看護（肺がん） ③脳神経機能障害のある患者の看護（くも膜下出血・脳出血） ④食道切除術を受ける患者の看護（食道がん） ⑤排泄機能障害のある患者の看護（直腸の手術（人工肛門造設術）） ⑥循環器障害のある患者の看護について（心筋梗塞・心不全）	講義 演習	
15	終講試験		
使用テキスト 臨床外科看護総論論・臨床外科看護各論(医学書院)		参考書 必要時提示	
評価の方法：終講テスト レポート提出 授業態度（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	回復期看護論	年	2年次	単位	1単位	担当	大森かほり 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	30時間		
学習のねらい 回復期における身体的・精神的・社会的特徴と、そのレベルに応じた援助方法を学修する							
到達目標 1. 回復期におけるリハビリテーション看護を理解し、対象の回復と自立、社会復帰に向けて退院後の生活を支える看護を理解することができる 2. 骨、関節、筋系及び神経系の疾患をもつ患者の看護を理解することができる 3. 各疾患の事例を通し、対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し解決能力を養うことができる							
事前学習：解剖生理学：脳神経、運動器疾患							

【学習スケジュール】

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1	リハビリテーション看護の定義と理念 リハビリテーション看護の対象 障害とは、障害受容について	講義	
2	経過別にみるリハビリテーション、多職種連携	講義	
3	運動器疾患をもつ患者の看護、看護の役割	講義	
4	検査の看護、保存療法を受ける患者の看護	講義	
5	変形性膝関節症患者の看護①	講義	
6	変形性膝関節症患者の看護②	講義・演習	
7	腰椎椎間板ヘルニア患者の看護	講義	
8	大腿骨骨折患者の看護①	講義	
9	大腿骨骨折患者の看護②	講義・演習	
10	四肢切断後の看護	講義	
11	脊髄損傷患者の看護①	講義・演習	
12	脊髄損傷患者の看護②	講義・DVD	
13	脳・神経疾患をもつ患者の特徴と看護の役割	講義	
14	脳梗塞患者の看護・くも膜下出血患者の看護	講義 DVD	
15	終講試験		
使用テキスト 医学書院系看護学講座⑦脳・神経 ⑩運動器 医学書院系看護学講座 別巻リハビリテーション看護		参考書	
評価の方法： 提出物 出欠状況 終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	慢性期看護論	年	2年次	単 位	1単位	担 当	磯垣 純子 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	30時間		
学習のねらい 成人期における疾病や障害と共生するためのセルフマネジメント能力の獲得に向けた、看護実践の基本となる思考プロセスを学修する。							
到達目標 1. 成人期にある人々とその家族の特徴を理解し、慢性疾患とともに生活する対象について学ぶ。 2. 成人の学習の特徴をふまえ、成人みずから健康上の課題を解決できるための援助方法を理解する。							
事前学習 解剖生理学Ⅰ・Ⅱの内容と、疾病論の内分泌・代謝、腎・泌尿器、感覚器、免疫・アレルギーの内容を復習しておく。							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考	
1	慢性期疾患の看護 ①慢性期とは ②慢性期患者の特徴 ③受容過程と看護	講義		
2~3	皮膚疾患の看護	G.W		
4	感覚器疾患の看護			
5	免疫・アレルギー疾患の看護			
6~7	内分泌疾患の看護			
8~9	腎・泌尿器疾患の看護			
10	代謝疾患の看護			
11~14	糖尿病患者の看護		演習	
15	終講試験			
使用テキスト 臨床看護総論（医学書院） 系統別看護学講座 ⑥⑧⑪⑫⑬（医学書院）			参考書 必要時提示	
評価の方法：筆記試験、演習課題（評価の割合は授業の初回に提示する）				

授業科目	終末期看護論	年	2年次	単 位	1単位	担 当	森 都 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	30時間		
<p>学習のねらい</p> <p>終末期にある患者の全人的苦痛と死の受容過程を理解し、人生の最後の時を支える看護を学ぶ。また家族の精神的苦痛を理解し、患者の死後もケアが必要であることを知る。</p> <p>この学習から自己の「死生観」を深めることができる</p>							
<p>到達目標</p> <p>①終末期における心身の変化を理解し、全人的苦痛を緩和する援助方法について理解する</p> <p>②終末期にある患者がその人らしく残された時間を全うできるように家族を含めた看護が考えられる</p> <p>③終末期看護を通じて自己の「死生観」を深めることができる</p>							
<p>事前学習 終末期に関する書籍や新聞などを見ておく</p>							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1～14	1. 終末期にある患者・家族の特徴 ・全人的苦痛 2. 終末期看護の特徴 ①エンド・オブ・ライフケア ・終末期を過ごす場所・死亡の場所の理解、チーム医療 ・死をめぐる倫理的課題の理解（意思決定支援など） ②死の受容過程（キュープラロスの「死にゆく過程」） ③悲嘆 3. 終末期にある患者・家族への援助 ①子ども・認知症・高齢者・難病患者の看護 ②苦痛の緩和（疼痛・その他の症状（呼吸困難、浮腫、食欲不振、睡眠障害など） ③死の看取り（危篤時・臨終時・死亡時の看護、家族も含めて） ④エンゼルケア 4. 終末期にある患者の看護 ①呼吸器疾患患者の看護 ②消化器疾患患者の看護（膵臓がん） ③血液・造血器疾患患者の看護 終講試験	講義 DVD グループワーク	
15			
使用テキスト：成人看護学総論（医学書院）・緩和ケア（医学書院） 血液・造血器、消化器、呼吸器（医学書院）		参考書	必要時授業で提示する
<p>評価の方法</p> <p>終講試験、レポート提出状況、出席状況（評価の割合は授業の初回に提示する）</p>			

授業科目	がん・周術期看護論 (がん看護)	年	2年次	単位	0.5単位	担当	牧 征太郎 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	15時間		
学習のねらい がんの病態・治療の特徴、日常生活への影響を理解し、がん患者や家族がその人らしい生活が送れるよう看護援助方法について学ぶ							
到達目標 ①がん患者・家族が抱える問題を理解できる ②がんの苦痛や治療に対する看護について理解できる ③日常生活への影響を理解し、他職種による連携・協働を理解できる							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1～7	1. がん医療の現在 ・がんを取り巻く状況、 2. がんの病態と臨床経過（肝臓がん） ・がんの特徴と臨床経過を知る 3 がん患者の看護 ・がん患者の苦痛に対するマネジメント(トータルペイン)など 4. がん性疼痛について ・がん性疼痛のメカニズム、痛みに対する薬物療法など 5. がん治療に対する看護 ・化学療法・放射線療法・手術療法 6. がん治療の場と看護 ・外来がん看護の現状、がん患者療養支援など多職種連携 7. 補完療法 ・補完代替医療、マッサージ、音楽療法、栄養療法など 8. 緩和ケア ・全人的苦痛の理解、症状マネジメント、家族ケアなど	講義 グループ ワーク	
8	・全人的苦痛の理解、症状マネジメント、家族ケアなど 終講試験		
使用テキスト 緩和ケア・がん看護（医学書院）		参考書 授業の中で紹介する	
評価の方法 終講試験、レポート提出状況、出席状況（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	がん・周術期看護論 (周術期看護)	年	2年次	単 位	0.5単位	担 当	中山 恵美 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	15時間		
<p>学習のねらい</p> <p>急性期看護論で学習した周術期看護の知識をもとに、胃がんで手術を必要とする患者事例を通し、周術期における対象の看護上の問題を理解する。さらに、演習を通して術後の回復を支援するために必要な臨床判断能力や看護実践能力につなげる事ができる。</p>							
<p>到達目標</p> <p>1. 手術を必要とする患者の事例を通し、周術期における患者の看護について述べるができる。</p> <p>侵襲による生体反応の機序を理解した上で術後合併症予防のための看護が実践できる。</p>							
<p>事前学習</p> <p>手術を必要とする患者の疾患について</p>							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1 ～ 8 回	1) 手術が必要となった患者の対象の理解 2) クリニカルパスと看護問題の抽出 3) 看護計画の立案 4) 周術期における看護場面のシミュレーション演習 5) 退院後の生活を支える看護について	講義 演習	
使用テキスト 臨床外科看護総論 臨床外科看護各論		参考書 必要時提示する。	
<p>評価の方法：</p> <p>出席状況 授業態度 レポート提出 パフォーマンス評価（評価の割合は授業の初回に提示する）</p>			

授業科目	老年看護学概論 保健論	年	1年次	単位	1単位	担当	大池 秀子 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	15時間		
学習のねらい 老年期の特徴的な健康問題について学び、解決のための看護を理解する							
到達目標 1. 老年期における対象の特徴を理解し、老年看護の目的と意義について理解できる。 2. 高齢者を取りまく環境と保健・医療・福祉における老年看護の役割を理解できる。							
事前学習 テキストを見ておく							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1～2	老年期における対象の理解 高齢者のイメージについてのGW 発表	講義・GW	
3	老いるとは？老化とは？ 老年期の発達課題	講義 講義	
4～5	超高齢社会と社会保障 介護保険 高齢者虐待 身体拘束 権利擁護 老年看護のなりたち	講義	
6～7	高齢者のヘルスアセスメント	講義	
8	終講試験		
使用テキスト： 老年看護学（医学書院）		参考書 「老年看護 病態・疾患」（医学書院）	
評価の方法 出席状況、授業態度、レポート、終講試験を総合して評価します。（評価の割合は授業の初回到提示する）			

授業科目	老年看護論 I	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	上川 比呂勝 大池 秀子 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	30 時間		

学習のねらい

加齢変化が日常生活に及ぼす影響や健康上の問題を抱えた高齢者を理解し支援方法を習得する。

到達目標

1. 加齢の変化が日常生活に及ぼす影響を理解し、生活支援の方法を理解する。
2. 健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護について理解する。
3. ライフサイクルの最終段階にある対象の生や死について理解を深め、人格・価値観・いのちを尊重する態度を養う。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	1、高齢者の生活機能を整える看護の展開	講義	
2	A 日常生活を支える基本的活動	講義	
3	B 食事・食生活 C 排泄 D 清潔	講義	
4	E 生活リズム F コミュニケーション	講義	
5	G セクシュアリティ H 社会参加	講義	
6	2、治療を必要とする高齢者の看護	講義	
7	A 検査を受ける高齢者の看護 B 薬物療法を受ける高齢者の看護 C 手術を受ける高齢者の看護 D リハビリテーションを受ける高 齢者の看護 E 入院治療を受ける高齢者の看護	講義	
8	3、エンドオブライフケア	講義	
9.10	A エンドオブライフケアの概念 B 「生ききる」ことを支えるケア C 意思決定への支援 D 末期段階に求められる援助	講義	
11.12	4、老年看護技術	演習	
13	5、老年症候群	GW 演習	
14	6、アルツハイマー型認知症①	講義	
15	アルツハイマー型認知症②	講義	
	まとめ	講義	

使用テキスト

系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論 医学書院

参考書

評価の方法：

出席状況・筆記試験・レポート課題・授業や演習の参加状況など総合的に評価（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	老年看護論Ⅱ	年	2年次	単位	1単位	担当	中谷 秀美 北村 美穂 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	30時間		
学習のねらい							
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の健康とQOLの維持・向上に対するリハビリテーションについて学ぶ。 ・社会の変化に伴う高齢者の医療・保健・福祉の場における看護について学ぶ。 							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の日常生活の自立に向けたリハビリテーションについて理解し、援助方法を学ぶことができる。 2. 高齢者の保健医療福祉施設及び在宅における看護について理解することができる。 							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	1, 日常生活を支える基本的活動	講義	
2	・基本動作と環境のアセスメント		
3	・日常生活活動の評価	講義	
4	・廃用症候群のアセスメントと看護	講義	
5	2, 治療を必要とする高齢者の看護	講義	
6	・リハビリテーションを受ける高齢者の看護	演習	
7,	3, 生活・療養の場における看護	講義	
8,	・高齢者とヘルスプロモーション		
9,	「住み慣れた場所で最期まで」を実現する地域包括ケア	講義	
10,	・保健医療福祉施設および居住施設における看護	講義	
11,	介護保険施設の特徴と看護	講義	
12,	地域密着型サービスの特徴と看護	講義	
13,	・治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	講義	
14,	4, 高齢者のリスクマネジメント	講義	
	・高齢者と医療安全 ・高齢者と救命救急 ・高齢者と災害	講義	
	5, 介護が必要な高齢者の社会資源について	講義	
使用テキスト		参考書	
系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学 医学書院			
系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護病態・疾患論 医学書院			
評価の方法：			
出席状況・筆記試験・レポート課題・授業や演習の参加状況など総合的に評価（評価の割合は授業の初回到提示する）			

授業科目	老年看護論Ⅲ	年	2年次	単位	1単位	担当	森 都 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	15時間		
学習のねらい 老年期の発達課題と加齢に伴う変化を理解し、看護過程展開の展開方法を学ぶ。							
到達目標 1. 対象の疾患を理解することができる 2. 老年期の発達課題、加齢に伴う変化を理解し、疾患・治療による日常生活への影響をアセスメントすることができる 3. アセスメントに基づいて対象の全体像を捉え、看護問題を挙げるすることができる 4. 高齢者が望む生活に向けて、自立や安全を考慮した具体的な計画を立案することができる							
事前学習 看護過程展開に必要な事例に関連した学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1)	老年看護の看護過程について 事例紹介 事前学習	講義	
2)	事前学習	演習	
3)	情報の整理	講義・演習	
4)	アセスメント	講義・演習	
5)	アセスメント	演習	
6)	関連図	GW・演習	
7)	看護計画	講義・演習	
8)	看護計画 提出	演習	
使用テキスト 系統学看護講座 専門分野Ⅱ老年看護学 医学書院 系統学看護講座 専門分野Ⅱ老年看護 病態・疾患論 医学書院		参考書	
評価の方法： 出席状況、演習の参加状況など学習態度、提出物を総合的に評価（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	小児看護学概論	年	2年次	単 位	1単位	担 当	川島 千鶴 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	15時間		
<p>学習のねらい</p> <p>近年の子どもがおかれている社会状況における課題や胎生期から思春期までの成長発達過程や代表的な発達理論、子どもの安全に対する支援のあり方など基礎的知識を学ぶ。</p>							
<p>到達目標</p> <p>1)子どもの健康と権利を守るため、子どもと家族を支援するための法律や政策について理解できる 2)子どもの特性について、身体的・精神的成長発達を理解し、小児看護の役割を理解できる 3)あらゆる健康レベルにある子どもの生活の場を理解し発達段階に応じた援助について学ぶ</p>							
<p>事前学習</p> <p>なし</p>							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1～7	1)小児看護の特徴と理念 (1)小児看護の目ざすところ (2)小児と家族の諸統計 (3)小児看護の変遷 (4)小児看護における倫理 (5)小児看護の課題 2)子どもの成長・発達 (1)成長発達とは (2)成長・発達の進み方 (一般的原則) (3)成長・発達に影響する因子 (4)成長の評価 (5)発達の評価 3)小児各期の特徴と看護 (1)新生児・乳児 (2)幼児・学童 (3)思春期・青年期 4)家族の特徴とアセスメント 5)子どもと家族を取り巻く社会	講義	
8	終講試験		
使用テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院		参考書	
<p>評価の方法：</p> <p>出席状況・筆記試験等（評価の割合は授業の初回に提示する）</p>			

授業科目	小児看護学保健論	年	2年次	単位	1単位	担当	廣瀬 智香子 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	15時間		
学習のねらい 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響、症状から見た看護、コミュニケーションを含む看護技術を教授し子どもや家族に必要な支援を考える上での援助や教育指導について学修する。							
到達目標 1)あらゆる健康レベルにある子どもの生活の場を理解し発達段階に応じた援助について学ぶ。 2)小児看護学に必要な看護の知識・技術を学び、病棟・外来における看護に活かせる。							
事前学習 なし							

【学習スケジュール】

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1～7	1) 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 2) 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 3) 子どもの疾病の経過と看護 4) 子どものアセスメント ①コミュニケーション②バイタルサイン③身体測定 ④身体的アセスメント 5) 症状を示す子どもの看護 ①呼吸困難②発熱③痙攣④下痢・便秘⑤嘔吐⑥脱水⑦発疹 6) 検査・処置を受ける子どもの看護 ①与薬②輸液管理③抑制④検体採取⑤清潔⑥呼吸症状の緩和	講義	
8	終講試験		
使用テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院		参考書	
評価の方法： 出席状況・筆記試験等（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	小児看護論 I	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	西野 正人 福永 千佳 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	30 時間		
学習のねらい 新生児および小児に生じる健康障害について、病態・症状・診断・治療・関わりなどについて学修する。							
到達目標 1)子どもの主な疾患の特徴を理解し、病態・症状・診断・治療などについて理解する。 2)「事故・外傷」、「子どもの虐待」など近年の小児医療の課題と対策について理解する。							
事前学習 なし							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1～14	1)染色体異常・体内環境により発生する先天異常 2)新生児のおもな疾患 3)代謝性疾患 4) 内分泌疾患 5)免疫疾患・アレルギー疾患、リウマチ性疾患 6)感染症*予防接種 7)呼吸器疾患 8)循環器疾患 9)消化器疾患 10)血液.造血器疾患 11)悪性新生物 12)腎・泌尿器疾患および生殖器疾患 13)神経疾患 14)運動器疾患 15)皮膚疾患 16)眼疾患 17)耳鼻咽喉疾患 18)精神疾患・発達障害 19)事故・外傷 *蘇生法 20)子どもの虐待	講義	
15	終講試験		

使用テキスト

系統看護学講座 専門II 小児臨床看護各論 医学書院

参考書

評価の方法：出席状況・筆記試験等（評価の割合は授業の初回に提示する）

授 業 科 目	小児看護論Ⅱ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	川島 千鶴 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	30時間		
<p>学習のねらい</p> <p>子供の健康問題の経過や置かれている状況、症状から見た看護、コミュニケーションを含む看護技術やそれぞれの健康レベルに応じた多様な特性のある子どもとその家族を対象にその子らしく生活できるように援助や教育指導について学ぶ</p>							
<p>到達目標</p> <p>① 小児看護学に必要な看護の知識・技術を学び、病棟・外来における看護に生かせる ② 健康障害や入院が子供や家族に及ぼす影響について理解することができる ③ 疾病の経過に応じた看護や障害を持つ子供とその家族の理解と社会支援について理解する ④ 各疾患の病態を理解し症状や治療に対しての看護を考えられ援助につなげられる</p>							
<p>事前学習</p> <p>子どもの成長発達についてや子供と家族の関係について勉強しておく</p>							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1～7	1. 各疾患の看護 ①呼吸器系疾患 ②循環器系疾患 ③腎疾患 ④消化器系疾患 ⑤染色体異常 ⑥代謝異常 ⑦アレルギー疾患 ⑧感染症	講義 グループワーク	
8	終講テスト		
使用テキスト 小児看護学概論・小児臨床看護学総論（医学書院） 小児臨床看護各論（医学書院）		参考書 小児看護に関する参考書（必要時指示）	
<p>評価の方法</p> <p>終講試験、レポート提出状況、出席状況（評価の割合は授業の初回に提示する）</p>			

授業科目	母性看護学概論・保健論	年	2年次	単位	1単位	担当	深井 和恵 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	15時間		

学習のねらい

母性看護の対象理解を、女性のライフサイクルにおける性と生殖や母子統計、法規など幅広い視点で捉え、価値観の多様化に応じたヘルスプロモーションのための基礎的知識を修得する。

到達目標

1. 母性の概念及び母性看護の特性が理解でき、
2. 母性看護の対象を取り巻く現状と課題を理解し、母性看護の意義と役割そして機能を理解できる
3. リプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の水準維持・増進が理解できる
4. 女性のライフサイクル各期の特性を理解し、健康問題と課題に関する看護が理解できる
5. 母性看護の変遷、現状と動向が理解でき、関連する法や施策について理解できる。

事前学習

グループワークの予定と課題発表について説明します。課題にそった事前学習を行ってください。

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	1) 母性の概念と母性看護の意義・役割	講義	
2	2) 母性看護の変遷と動向	講義	
3	(1) 母性看護の変遷 (2) リプロダクティブヘルス/ライツ	講義	
4	(3) セクシュアリティの概念と意義、性的マイノリティー (4) 母性看護における法律・統計・施策 (5) 母性保健の現状	講義	
5	3) 母性の身体的・心理的・社会的特性	講義	
6	(1) 生殖の構造と機能、性分化（発生） 4) 母性看護の対象	講義	
7	(1) 女性のライフサイクル各期の健康障害と看護 5) 母性看護における生命倫理	講義	
8	(1) 生命倫理と看護倫理・生殖補助医療技術の進歩と課題 終講試験	筆記試験	

使用テキスト

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学①母性看護学概論・保健論 医学書院

参考書

「国民衛生の動向」、(厚生労働統計協会)
「母性論」(ルヴァ・ルービン (新道幸恵他訳：医学書院))

評価の方法： 筆記試験 100%

授 業 科 目	母性看護論 I	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	愛甲 美香子 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	30 時間		
学習のねらい 妊娠・分娩・産褥期および新生児の定義、そして生理的变化と適応、病態について学び、看護するための基礎的知識を習得し、科学的根拠に基づき判断できる能力を養う							
到達目標 1. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児期を通して、母子の健康の保持・増進・回復するための基礎的理論と方法を身体的・心理的（精神的）・社会的側面から学ぶ。 2. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の正常な経過から逸脱し異常な状態にある母子に対し、適切な看護を行うための知識と技術を学ぶ。							
事前学習 科学的根拠に基づき判断できる能力を養うために、妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の生理的变化をしっかりと理解するまで、テキストを熟読する							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1、2 3、4 5、6 7、8 9、10 11、12 13 14 15	1)妊娠期の経過 (1)妊娠期の身体的特性 (2)妊娠期の心理・社会的 (3)妊婦と胎児のアセスメント 2)分娩期の経過 (1)分娩の要素 (2)分娩の経過 (3)産婦・胎児・家族のアセスメント 3)産褥期の経過 (1)産褥経過 (2)褥婦のアセスメント 4)新生児の生理と看護 (1)新生児の生理 (2)新生児のアセスメント 終講試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	
使用テキスト 系統学看護講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院		参考書 横尾京子編他：ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 母性看護実践の基本 (メディカ出版) 仁志田博司：新生児学入門 第4版 (医学書院)	
評価の方法： 筆記試験 100%			

授業科目	母性看護論Ⅱ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	深井 和恵 川島 千鶴 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	30時間		
学習のねらい							
妊娠、分娩、産褥期及び新生児期を通して、母子の健康の保持・増進・回復をめざした看護について学ぶ。また、妊娠、分娩、産褥期及び新生児期の異常について理解し、母子に応じた看護の方法を学ぶ。							
到達目標							
1. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児期を通して、母児の健康の保持・増進・回復するための看護実践をする意味について身体的・心理的（精神的）・社会的側面から理解できる。 2. 胎外生活への適応過程を理解し、児の健康な発達を促すための援助方法を理解することができる。 3. 母親役割過程獲得に向けた援助方法としての母性看護技術が理解できる 4. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の異常について理解し、適切な看護が提供できる方法を学ぶ 5. 演習を通して、母性看護技術が習得できる。							
事前学習							
科学的根拠に基づいた判断能力を養う為、各期の生理的変化を理解するまでテキストを熟読する							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1、2	1)妊娠期の看護 （1）妊娠期の身体的・心理的・社会的特性	講義 DVD	
3、4	（2）妊婦と胎児、家族のアセスメントと看護	演習	
5、6	2)分娩期の看護 （1）分娩の要素と分娩経過 （2）産婦・胎児、家族のアセスメントと看護	講義 DVD	
7、8	3)新生児期の看護 （1）新生児の生理 （2）新生児のアセスメントと看護	講義 DVD 演習	
9、10	4)産褥期の看護 （1）産褥経過 （2）褥婦のアセスメント （3）褥婦と家族の看護	講義 DVD 演習	
15	5)妊娠、分娩、産褥、新生児期の異常と看護 終講試験	講義 筆記試験	
使用テキスト 系統学看護講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院		参考書 横尾京子編他：ナーシング・グラフィカ 母性看護学 ①母性看護実践の基本（メディカ出版）	
評価の方法：筆記験100%			

授 業 科 目	母性看護論Ⅲ	年	3年次	単 位	1単位	担 当	廣瀬 智香子 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	15時間		
学習のねらい 正常褥婦事例を基に、母子の看護過程の展開技術を習得する。ウェルビーイングの視点で対象をとらえ妊娠・分娩・産褥期の変化を一連の経過としてアセスメントし、母子に応じた援助方法を考える能力を養う。							
到達目標 1. 正常な妊娠期・分娩期・産褥期の事例を基に、既習の知識を統合してウェルネスの視点で対象をとらえ、母子の看護過程の展開方法が理解できる。							
事前学習 母性看護学概論・保健論、母性臨床看護論Ⅰ・Ⅱで学んだことを復習して授業に臨み、母子双方からの視点で捉えることができるように事前学習をしていく。また、母性の対象に備わっている力を引き出せるための支援のあり方について復習しておきましょう							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1 2 3 4 5	1) 母性看護における看護過程 (1) 母性看護の看護過程の展開、ウェルネス診断とは (2) 母性看護における対象把握 (3) 看護上の問題 (4) 看護目標と具体策の立案 (5) 評価	講義 講義 講義 講義 講義	
6, 7, 8	2) 正常褥婦事例の看護過程の展開	グループワーク	
使用テキスト 系統学看護講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論・保健論 医学書院 系統学看護講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院		参考書 授業時必要に応じて紹介する	
評価の方法： レポート、グループワーク及び演習態度（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	精神看護学概論・ 保健論	年	1年次	単 位	1単位	担 当	竹内 昌子 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	15時間		
学習のねらい あらゆる人々の「こころ」の健康について考え、精神的健康の回復、維持増進をはかることをめざし、精神看護学の特徴と基本概念を学修する							
到達目標 1. 精神の健康について理解し、精神障害を持つ人と社会について知ることから看護が担う役割や機能について理解する 2. 精神保健医療の歴史的変遷を踏まえ、精神科領域で必要な法律と制度を理解する 3. 地域における精神保健医療の実際について理解する 4. 災害時のこころのケアについて理解する							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	精神障害と精神保健 精神保健の目的と精神医療と方向性 精神の健康とは、ストレスマネジメント	講義	
2	入院医療中心から地域生活へ 地域精神保健における第一予防、第二次予防、第三次予防	講義	
3	リハビリを機軸とした精神医療	講義	
4	精神障害をもつ人との病の体験と精神看護	講義・DVD	
5	精神障害と治療の歴史 精神領域で必要な法律と制度	講義	
6	地域におけるケアと支援 災害時のメンタルヘルスと看護	講義・GW	
7	看護師における感情労働、看護師のメンタルヘルスへの支援 リエゾン精神看護	講義	
8	終講試験		
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野II 精神看護の基礎 精神看護学① 系統看護学講座 専門分野II 精神看護の展開 精神看護学②		参考書	
評価の方法： 提出物 出欠状況 終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	精神看護論Ⅰ	年	2年次	単位	1単位	担当	上川 比呂勝 有村 由美子 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	30時間		
学習のねらい 精神疾患の理解とコミュニケーション技術を通しての自己の理解について学修する							
到達目標 1. 主要な精神疾患とその症状を理解する。 2. 精神科における治療・検査について理解する。 3. 精神障害をもつ人とのコミュニケーションについて理解する。 4. 精神障害をもつ人との「患者－看護師」関係のあり方を理解する 5. プロセスレコードの使い方とその意義を理解する							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1	精神症状の理解（意識・知覚・思考・感情・意欲・認知の理解など）	講義	
2	精神科における治療（精神療法、薬物療法、電気けいれん療法など）	講義	
3	疾患の理解①統合失調症	講義	
4	疾患の理解②統合失調症	講義	
5	疾患の理解③気分障害：双極性障害、抑うつ障害群	講義	
6	疾患の理解④神経症性障害、ストレス関連障害	講義	
7	疾患の理解⑤アルコール依存症	講義	
8	疾患の理解⑥摂食障害、パーソナリティ障害	講義	
9	疾患の理解⑦てんかんなど	講義	
10	ケアの前提・原則・方法①（精神障害をもつ人とのかかわり方）	講義・演習	
11	ケアの前提・原則・方法②（精神障害をもつ人とのコミュニケーション）	講義・演習	
12	プロセスレコードとは		
13	プロセスレコードの一例	講義・演習	
14	プロセスレコード記入	講義・演習	
15	終講テスト		
使用テキスト メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護			参考書
評価の方法： 提出物 出欠状況 終講テスト（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	精神看護論Ⅱ	年	2年次	単位	1単位	担当	有村 由美子 牧 誠太郎 実務経験の有無：有
		次	後期	時間	30時間		
学習のねらい 精神障害者とその家族に対して必要な看護を実践するための基礎的知識・技術を学修する							
到達目標 精神看護の基本技術について理解する。							
事前学習 精神障害についての理解、精神看護学概論・保健論 精神臨床看護論Ⅰ 社会保障制度							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	精神科での入院治療の意味	講義	
2	精神科病棟という治療的環境と患者の生活	講義	
3	事故防止、安全管理と倫理的配慮：隔離・身体拘束時の看護	講義	
4	精神症状のある患者の看護	講義	
5～	不安 引きこもり 脅迫行為 幻覚・妄想	講義	
8	自殺企図 等	講義	
8～	主要精神疾患をもつ患者の看護	講義	
12	てんかん 統合失調症 躁うつ病 小児自閉症 等		
13～	主要な精神科治療と看護		
14			
15	終講テスト		
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ精神看護の展開 精神看護学②			参考書
評価の方法： 出欠状況 終講試験 提出物（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授 業 科 目	精神看護論Ⅲ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	有村 由美子 実務経験の有無：有
		次	後期	時 間	15時間		
学習のねらい 地域での精神障害者とその家族に対して必要な看護を実践するための基礎的知識・技術を学修する 医療の場・災害時におけるメンタルヘルスと看護の実際を学ぶ							
到達目標 精神障害者の社会復帰支援、地域生活支援について理解する リエゾン精神看護について知ることができる 災害時における看護の実際を知ることができる							
事前学習 精神障害についての理解、精神看護学概論・保健論 精神臨床看護論Ⅰ 社会保障制度							

【学習スケジュール】

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	地域におけるケアと支援	講義	
2	地域生活を支えるシステムと社会資源	講義	
3	精神科作業療法、作業療法士的アプローチ、リハビリテーション療法	講義	
4	SST、デイケア	講義	
5	地域精神福祉と社会参加 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際	講義	
6	リエゾン精神看護の実際	講義	
7	災害時の看護	講義	
8	終講テスト		
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②		参考書	
評価の方法： 終講試験			

授業科目	看護の統合と実践概論 医療安全	年	2年次	単位	0.5単位	担当	大池 秀子 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	15時間		
学習のねらい 医療安全における基礎的な知識、および看護職の責務と役割について理解する。							
到達目標 1. 医療安全の基本的な知識を説明できる。 2. 看護業務の範囲と責任について説明できる。 3. ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止策について説明ができる。 4. 事故防止の意味と必要性について説明ができる。							
事前学習 テキストを見ておく							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	事故防止の考え方を学ぶ。	講義	
2	患者に投与する業務における事故防止	講義	
3	継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止	講義	
4	療養上の世話の事故防止	GW	
5	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	講義	
6	医療安全とコミュニケーション	GW	
7	看護師の労働安全衛生上の事故防止 組織的な安全管理体制への取り組み	講義	
8	終講試験		
使用テキスト： 看護の統合と実践②（医学書院）			
参考書			
評価の方法 出席状況、授業態度、終講試験を総合して評価します。（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	看護の統合と実践論 I (国際看護)	年	3年次	単位	0.5単位	担当	高田 勝子 実務経験の有無：有
		次	前期	時間	15時間		
学習のねらい 国際社会における日本の役割を学び、医療、看護の分野における国際協力の在り方について考える							
到達目標 1. 国際社会における看護を必要とする人々の状況から日本における国際看護について考える 2. 世界の健康問題、諸外国の看護を理解し国際協力について考える							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1～7	1. 世界の健康問題の現状 ・国際看護学の対象 ・国際看護学に関連する基礎知識 ・グローバルヘルス 2. 国際協力のしくみ ・国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関 ・国際救援の調整 ・開発協力 3. 文化を考慮した看護 4. 開発協力と看護 ・開発途上国と看護 5. 国際救援と看護 ・近年の世界における災害と難民・国内避難民の状況 ・国際救援活動の基本理念 ・近年の特徴的な災害・紛争救援活動の概要	講義 グループワーク	
8	終講試験		
使用テキスト 災害看護学・国際看護学（医学書院）		参考書 授業時必要に応じて紹介する	
評価の方法 終講試験、出席状況（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	看護の統合と実践論 I (災害看護)	年	3 年次	単 位	0.5 単位	担 当	西浦 聡子 実務経験の有無：有
		次	前期	時 間	1 5 時間		
学習のねらい 災害活動の法的根拠や、様々な職種の人々と協働し、災害時の看護活動を円滑に行うために必要な災害医療の基礎的知識を理解する。また救護者を含めたところのケアについても考えることができる							
到達目標 1. 災害時に必要な看護活動を円滑に行うための災害医療の基礎的知識について理解する 2. 被災者・救護者の心理について理解することができる							
事前学習 地域における災害時の取り組みについて調べる							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1 ～ 7	1. 災害看護の歴史 2. 災害医療の基礎知識 ・災害の種類と健康被害、災害医療の特徴、災害と情報 ・災害対応にかかわる職種間・組織間連携 ・災害看護と法律、近年の災害における課題と対応 3. 災害看護の基礎知識 ・災害看護の役割、災害看護の対象、災害看護の特徴と看護活動 4. 災害サイクルに応じた災害看護 ・急性期・慢性期・復興期・静穏期 5. 被災者への支援活動 6. 国内外の災害医療活動 7. 災害とところのケア ・被災者・救護者のところのケア 8. 地震災害看護 ・救護活動（救護所の開設、トリアージなど）	講義 グループワーク 演習	
8	終講試験		
使用テキスト 災害看護学・国際看護学（医学書院）		参考書 授業時必要に応じて紹介する	
評価の方法 終講試験、出席状況（評価の割合は授業の初回に提示する）			

授業科目	看護の統合と実践論II (看護技術の統合演習)	年	3年次	単位	1単位	担当	大森かほり 実務経験の有無：有
		次	前後期	時間	30時間		
<p>学習のねらい</p> <p>既習の知識・技術を統合し、卒業時に求められる知識・技術・態度を習得し、対象の状態に応じた看護が実践できる能力を養う。看護実践能力を評価し、自己の課題を明確にする。</p>							
<p>到達目標</p> <p>1. 複数患者を受け持つ状況を考え、時間管理や優先度を考慮できる。 2. 自己の看護実践力の評価ができ、課題を明確にできる。</p>							
<p>事前学習</p> <p>基礎看護技術、症状別看護等</p>							

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	オリエンテーション、事例提示（4事例）	演習(個人)	
2,3	2事例のアセスメント、計画立案	演習(個人)	
4	複数患者の1日の行動計画立案	演習(個人)	
5,6	行動計画演習・振り返り	演習	
7	ベストプラクティス（NO9）作成	演習	
8	ベストプラクティス（NO9）実践	演習	
9,10	全体発表		
11	多重課題時の対応について	GW	
12	看護におけるリーダーシップ、メンバーシップとは	GW	
13,14	OSCE 演習	演習	
15	まとめ、振り返り		
使用テキスト 医学書院 統合分野 看護管理 等		参考書	
<p>評価の方法：</p> <p>OSCE、提出物、出欠状況（評価の割合は授業の初回に提示する）</p>			

授業科目	看護の統合と実践論Ⅲ (ケーススタディ)	年	3年次	単位	1単位	担当	深井 和恵 実務経験の有無：有
		次	前・後期	時間	15時間		
学習のねらい ・ケーススタディを通して、主体的実践により研究態度を養い、自己の看護観を育む。							
到達目標 1.看護に対する考え方を明らかにすることができる。 2.主体的に自己の課題を見出し、継続して研究する姿勢を身に付けることができる。							
事前学習							

【学習スケジュール】

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1	ケーススタディの目的・目標	講義	
2	ケーススタディの具体的なまとめ方について ケースの選択 研究計画書の作成	個人ワーク	
3	文献検索 集録・抄録の作成 (夏季休暇を利用して担当教員より指導を受ける)	個人ワーク	
4	発表原稿の作成	個人ワーク	
5	発表プログラムの作成		
6	発表準備		
7～ 8	発表	発表	
使用テキスト			
参考書			
評価の方法： 出席状況、研究態度、発表態度、発表内容を総合的に評価する。(評価の割合は授業の初回に提示する)			

2023年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：2023年4月1日
至：2024年3月31日

評価基準日 2024年4月1日

学校法人栗岡学園
阪奈中央看護専門学校

評価項目の達成および取組状況

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取り組み

教育分野 看護

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	○両学科とも令和4年4月より新カリキュラムを運用している。 ○教育理念、教育目標を土台とし、教育目標を示し、カリキュラム構成を行っている。また、教員への周知を行っている。	○「教育理念」を各学年の教室・廊下に掲示し、常に意識してもらいやすいようにした。 ○機会があれば勉強会に参加している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○学生及び教員に対して、教育理念や目標を引き続き周知していく。 ○カリキュラムの運用方法について、引き続き教務会等で検討していく。 ○看護師不足を補うためにも、准看護師の役割を理解し、准看護師教育の意義を、更に内外に知らしめる必要がある。 ○教員に対しても更なる教育目標の理解・共有を図る。	●教育理念の改善はすばらしい。理念の復唱などはしているか？ 回答：「誠実」という言葉を大切にし、授業に取り入れるなどしている。 ●実習でも理念を学生に聞く場合がある 回答：実習開始前に理念を再確認させている
2. カリキュラムに卒業後の職場のニーズをどのように反映していますか	○地域を基本とした多くの場での活動を求められることを考慮し、新カリキュラムでは看護実践力やコミュニケーション力の向上を目指す内容とした。	○姉妹校への訪問、見学ができた。特典などをうまく利用し、引き続き進学する学生を増やす必要がある。 ○2023年度、准看護科の進学率は56%であった。 ○コロナの影響でアルバイトに制限があり、経済的負担から進学を見送る学生がいた。 ○准看護師の役割として、観察と報告を重視すると共に、患者体験から患者の気持ちを慮る看護技術の習得に務めている。 ○准看護科のカリキュラムに看護過程が含まれず、就職が限定される場合がある。引き続き関連病院と話し合いをしていく必要がある。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○卒業後に就職した職場と連携を取りながら、今後も卒業研修にも協力したい。 ○准看護師の働き方や病院での位置付けを明確にし、学生に対しても理解を求める取り組みが必要となる。 ○准看護科の学生には、引き続き看護師の資格取得を勧めていく。また、1年生の早いうちから、姉妹校の見学説明会を行う。 ○引き続き、准看護師の職場ニーズの把握に努めていく。	●大学との棲み分けはどのように考えるか 回答：今や、大学の3校に1校が看護学科を備えている。就学期間が短いことなど、大学と違う良さを出していきたい。 回答：カリキュラムの中にも、看護実践者を育てる教育、実践能力が上がるような教育を取り入れている。即戦力は難しいが、現場で求められるスキルや、地域の方の健康を守っていく教育をしている

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	○全学年新カリキュラムで運用している。 ○コロナ等への対応について、実習病院、実習施設等の状況を入れて考えた。	○昨年度はコロナへの対応に追われたが、今年度は概ね通常の講義を行うことができた。 ○欠席者にはリモート講義に切り替えるなど、柔軟な対応ができた。 ○リモート講義などで調整し、全員年度内に授業を収めることができた。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○進度調整と講師依頼の時期なども引き続き検討していく。 ○新旧カリキュラムについて混同しないように取り組む。	
4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	○作成している。 ○授業内容は学生便覧に明記している ○カリキュラム改正に合わせて担当科目の見直しを再度行い、漏れや重複がないようにした。	○新カリキュラムのシラバスは講義依頼時に一部修正し、より分かりやすく変更している。 ○授業内容は教員・学生双方が分かるように明示しているが、未だすべての配布には至っていない。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○引き続き、非常勤講師にシラバスについて説明し、教育内容に漏れの無いようにする。 ○学生への冊子配布の実現 ○准看護師に求められる実践能力の育成に則った内容であるか、教員間で意見交換し、そこにより即した内容となるよう、改善に努める。	
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	○看護学科では、前後期終了後、教務会での議題として見直しを行っている。 ○准看護科でも、前後期終了時や問題提起があった場合などに、教務会議で時間数も含め見直しを行っている。	○新カリキュラムにつき、今年度は一層の見直しが必要。 ○年度末に短時間で見直しを図っているため十分とは言えないが、授業担当者からの意見を取り入れている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○新カリキュラムの運用に関しては、教員や講師と協議し慎重に進める。 ○今後の動向や情報を元に、教務会議等で見直しを行っていく。 ○カリキュラムについての話し合いを設ける会議を定期的に行う。	

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	<p>○2021 年度より電子テキストを導入している。</p> <p>○教育目標や教科の内容に合わせ、学生により分かりやすいと考えられるテキストを採択している。学生の経済的負担に配慮して精査した。</p> <p>○講義での使いやすさや、講師との話し合いも踏まえて決定している。</p>	<p>○講義内容により、副読本の活用及び動画利用などの工夫をしている。</p> <p>○あまり活用していない副読本があったため、担当講師に相談の上変更し、学生の経済的負担に配慮した。</p> <p>○使用頻度の少ないテキストを削ることにより、使用しないテキストの購入には至らなかった。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 ぶ 不</p> <p>← つ → 十</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○カリキュラム改訂や新刊本・改訂本など注意深く情報を得、ICT 教育も含め今後も教務会議等で見直しを行っていく。</p> <p>○学生の反応や意見を考慮し、ICT 導入による教育を一つの方略として活用する。</p> <p>○テキストの使用状況を確認し、内容と合わせて再検討し、学生への冊子配布につなげる。</p>	
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	<p>○評価は終講試験だけでなく、課題や実技などを踏まえ、担当教員が認めた方法で行っている。</p> <p>○30 時間を超える授業については、中間・終講の2 回試験を行い、その都度合格まで再テスト等を行っている。</p> <p>○実習評価は評価表に沿って、教員及び実習指導者が合議して評価している。また、教務会でも討議し決定している。</p> <p>○准看護科実習においては、指導者評価と教員評価を照らし合わせ、点差が大きい場合は合議する。それ以外は指導者と教員評価の平均値とする。</p> <p>○准看護科の臨地実習においてはルーブリック評価を取り入れた。</p>	<p>○成績不良者及び未成年者に対して、保護者との連絡を密にしている。家族の協力があることで、成績上昇がみられた。</p> <p>○中間試験があることにより、学生に勉強の必要性を意識化させることが出来、退学・休学を最小限に抑えている。</p> <p>○ルーブリック評価を取り入れ、より主体的に今の自分のレベルを学生自身が確認しながら評価することで、次なる課題を見出しやすくなった。母子看護実習のみ、従来の評価方法を続けているため、見直す必要がある。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 ぶ 不</p> <p>← つ → 十</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○成績評価について、ベースとなる学習を教員間で行なっていく。</p> <p>○均質的な実習評価を目指し、実習調整者を中心とした協議が必要である。</p> <p>○成績不良者及び未成年者に対しては、引き続き保護者との連携を図っていく。</p> <p>○母子看護実習の評価方法も、実習目標とともに見直し改善を図る。</p>	

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	<p>○学生の理解度に合わせ、各教員が授業形態や授業方法を選択している。</p> <p>○担任と非常勤講師で、問題を早期解決すべく話し合いを行っている。</p> <p>○非常勤講師への授業アンケートの一部開示を行っている。</p> <p>○授業中の姿勢などで、関心を持っているかを判断している。</p>	<p>○基礎学力の差が大きく、学習習慣なども生活環境による違いが大きい。授業や試験の結果を受けて、早めに対処するようにしている。</p> <p>○臨地実習の指導などに時間がかかり、授業方法等について研究する時間がとれない。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 ぶ 不</p> <p>← つ → 十</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○研究授業や公開授業などを行い、教員間でも検討していく。</p> <p>○両学科とも、常勤教員へのアンケート開示を行っている。</p>	
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	<p>○国家試験対策では、教員と学生による国家試験対策委員会が活動している。今年度も、例年の補習対策に加え、各学年委員会が自主的に決定し、対策を実行した。</p> <p>○資格試験対策においても強化学習などの対策を行った。2年次に資格試験対策委員を立ち上げ、学生主体の学習を毎朝行った。また、成績不良者を対策委員のメンバーに入れることで、自主的に学習に参加できるようにした。</p> <p>○成績不良者に対する補習を、3年次の夏期休暇および国家試験前に実施した。</p> <p>○入試合格者に対して入学前教育プログラムを導入し、事前課題に取り組んでもらっている。入学後には確認テストも行い、基礎力の定着や学習態度なども判定している。</p>	<p>○国家試験対策委員会「ナースになるぞ委員会」を継続的に運営している。学生と教員が定期的に会を開き、クラスに持ち帰った国試対策を学年に応じて実施している。学生の主体的な国家試験対策が維持できている。</p> <p>○在学期間を、有意義に学習に集中する期間であることを学生に対して指導している。</p> <p>○成績に個人差があったが、全員合格を目指し学生同士自主的にサポートしあうことができ相乗効果を得られた。結果、今年も合格率100%に繋がった。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 ぶ 不</p> <p>← つ → 十</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○引き続き、成績や授業態度に問題のある学生に関しては面接を行い、できるだけ早期に行動の修正ができるよう取り組む。</p> <p>○資格試験対策の効果をさらに向上させるべく、時期や方法について継続的に検討する。</p> <p>○実習と資格試験対策が関連していることを意識づけていく。</p> <p>○問題がある場合はその都度教務会で協議する。</p> <p>○基礎力リサーチの結果を用いて、注意の必要な学生には早めに対応していきたい。</p>	

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	<p>○担任を中心に、看護学生としてのマナーや身だしなみを都度指導している。</p> <p>○学生のプライベートの部分までケアし、何かあったときには学生、家庭、学校の三者で話し合うようにしている。</p> <p>○実習では「報告・連絡・相談」が必要不可欠であり、そのための教育もしている。</p> <p>○看護者の倫理綱領などを用いて指導している。</p> <p>○学内のみならず学外での行動についても指導が必要である。</p>	<p>○学外からの指摘があった場合すぐ対応している。</p> <p>○体調管理など含め自分の事が自分でできるトレーニングが未だ不十分な学生がいる。そうした学生は身だしなみも乱れがちである。</p> <p>○家庭環境や成育歴により指導が必要な学生に対し、多くの時間を必要としている。特に身だしなみ（服装・髪型）や言葉づかいについての指導が多い。</p> <p>○全教員が常時指導を行っているが、行動に変容のない学生もいる。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 ぶ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○</p>	<p>○マナー・倫理観の学習を深める必要がある。</p> <p>○学生指導の内容が複雑化しており、対応した教員のメンタル面でのフォローも必要である。</p> <p>○今後も、公認心理師の先生と連携していく。</p>	<p>●マナーの自己評価が毎年低いままなのはなぜか 回答：看護学校であるため、マナーの査定が厳しい。</p> <p>●マナーが守られているなら、自己評価を上げて良いのでは 回答：昨今、男子学生のヘアスタイルが実習に不適切な場合もあり、指導している</p>
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	<p>○夏休み等の限られた期間内で、研修に参加している。</p> <p>○研修に参加した教員に、会議での報告や資料の回覧等行ってもらっている。</p> <p>○一部、共同学習を取り入れている。</p> <p>○新しい教育方法について学ぶ機会があり、各教員積極的に取り入れている。</p>	<p>○各教員に、専門領域に関する学会や研修会への参加を呼び掛け、年2回の研修会参加を促せた。だが学内実習や講義等で研修に参加しにくい状況であり、研究も同様に時間的余裕がなく実施できていない。</p> <p>○個別指導に費やす時間が非常に多い。それぞれの生活環境が大きく影響していると考えられる。</p> <p>○人員が少なく、一人の教員に対する役割が大きい。</p> <p>○実習指導での担当学生数が非常に多く負担が大きいためか、教育方法について学ぶ姿勢が不足している教員もいる。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 ぶ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○</p>	<p>○教員の自己及び相互研鑽のためにも、研修に参加できるような体制作りが必要。奈良県看護協会主催の教員継続研修の受講を進め、自己研鑽に務める。</p> <p>○教員が、カウンセリングなど学生指導に活かすことのできる研修を計画している。</p> <p>○研修会に参加した教員には伝達講習を行ってほしい。</p> <p>○実施している新しい教育方法について、教員間での共有、研修会参加を積極的に進める。</p> <p>○教員同士で授業内容の吟味・相談などを出来る環境作りが必要。</p>	

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	○終講時に授業評価や卒業時アンケートを行い、その結果を受けて各教員が授業内容や方法改善に取り組んでいる。	○教員自身は結果を受け次年度に活かすよう、前向きに取り組んでいる。検討を要する場合は教務会で協議している。 ○学校関係者評価において、授業評価の充実が指摘されたが、未だ非常勤講師に対して授業評価が十分に生かされていない部分もある。 ○授業評価をオンラインに変更したため、評価をする学生が減少した。	5 4 3 2 1 十 ぶ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○授業評価の内容について引き続き検討していきたい。 ○実習だけでなく講義においても目標の到達レベルチェックを行い、終講試験と併せて理解度の確認をしていく。	

2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. 教室の数や広さ、付帯設備は適切ですか	<p>○設置基準に基づいている。</p> <p>○面談スペースが少ないため、利用が重ならないよう調整している。</p>	<p>○昨年度設置いただいた空調は良好に稼働している。</p> <p>○校舎の建設後 20 年以上が経過し、設備等に不具合が生じ始めている。</p> <p>○大きな学生向けの机や椅子がない。机・椅子の老朽化。</p> <p>○学生へのトイレ掃除の指導が難しい。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 十 十</p> <p>← つ →</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○体格の良い学生向けに、大きいサイズの椅子と机を準備したい。</p> <p>○設備などの計画的なメンテナンスや新規購入を進めたい。</p> <p>○自転車置き場に屋根を設置したい</p> <p>○備品の検討が必要。</p>	
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか(有効に活用されていますか)	<p>○放課後の自主学習など学生の活用度は高い。</p> <p>○卒業生がよく学校に来る。関連病院の看護師の方も、研究発表の資料作りで来校される。</p> <p>○図書は専門分野ごとにある程度充実しているが、古いものもある。</p>	<p>○図書室のコピー機を刷新し、カラーコピーも対応可となった。</p> <p>○学生や卒業生が使用しやすい環境である。</p> <p>○所在不明な図書が出ないよう、書庫を時間利用としている。</p> <p>○図書室の本を検索して、ケーススタディや実習のまとめ発表に活用している。</p> <p>○蔵書検索用のパソコンが老朽化しており、利用者も少ない。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 十 十</p> <p>← つ →</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○新書の購入の推進</p>	
3. 実習・実験室の数や広さ、付帯設備は適切ですか	<p>○基準に規定された通りで適切である。年に1回実習室の備品点検を行っている。</p>	<p>○タオル・シーツ・寝衣などの補充をしている。</p> <p>○必要に応じ、物品購入を行っているが、22年目を迎え、買い替えが必要となってきている。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 十 十</p> <p>← つ →</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○段階を追って、新規購入が必要。</p> <p>○備品点検時に備え、新規物品購入時に、番号と年月日を入れる。</p>	

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか(有効に活用していますか)	○一人一台パソコンを持ち、業務を行っている。 ○各教室の情報機器が古くなり、故障やトラブルがあるが、機器の買替により対応している。	○パソコン室のプリンターが1台しかなく、授業等で支障をきたしている。 ○ソフトウェアのバージョンが古く、DVD視聴や PowerPoint の読み込みに難がある。 ○プロジェクターのない教室があり、セッティングに手間と時間を要する。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○常に最新の状態を保てるよう、定期的に点検していきたい。 ○学籍管理ソフトや、学生への連絡アプリの導入を検討したい。 ○パソコン室のパソコンを新しいものにする。	●学園全体で見ると、IT化が進んでいる学校もあればそうでない学校もある。足並みをそろえた方が良いのでは。 ●大阪府の公立高校は、全員 web 出願となった。可否連絡などもインターネット経由である。
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか(有効に活用されていますか)	○学園の学生寮が設置されており、学生の入寮が可能である。	○入居する学生には、管理規則を遵守するよう指導している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○希望者が入寮できるようにする。 ○寮生への管理規則遵守を徹底する。	
6. 体育館や運動場などを保有していますか(有効に活用されていますか)	○関連施設の体育館を年に数回授業で利用している。	○関連施設のバスで送迎していただけのため、利用しやすい。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○今後も積極的に体育館を使用していきたい。	

3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	<p>○担任1名、副担任1~2名で学生指導を行い、問題がある学生については教務会議で協議している。</p> <p>○必要な場合は教務主任が保護者と連絡を取り、情報交換をしている。</p> <p>○成績や授業態度等問題のある学生には、面接を随時行っている。</p>	<p>○教員数の不足</p> <p>○放課後に学生からの相談が多く、残業となり、身体的・精神的な負担が大きい。</p> <p>○准看教育に興味を持つ人の確保が非常に困難</p> <p>○准看護科は年齢層が高く、自主的に勉強できる学生が多い。二十歳未満の学生は、こちらから働きかけないと学習が定着しない。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 ぶ 不</p> <p>← つ → 十</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○指導が必要な学生の増加で教員の対応時間が長くなるため、他の業務に支障をきたさないよう業務分担が必要。その際、担任の役割・考え方を共有することが大切である。</p> <p>○様々な課題を抱えた学生が多いため、担任に限らず誰もが学生に関わり共有する必要がある。</p>	<p>●教員数の不足とあるが、本来の人数は？</p> <p>回答：厚労省での決まりは看護学科8名、准看護科5名だが、法律と異なり、実際は実習場所が多いため、教員がつきっきりになると人数が足りない。専任教員養成講習会の受講も必要、次年度参加予定。</p>
2. 学生に対してカウンセリング(心理相談)を行っていますか	<p>○教員が学生と個別に対応していることもあるが、公認心理師と連携を取り、相談しながら対応している。必要時、公認心理師と定期面談も行ってもらおう。</p>	<p>○公認心理師が授業も担当してくださっており、学生にとっては安心できる環境である。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 ぶ 不</p> <p>← つ → 十</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○少なくとも週2回のカウンセラー常駐が望ましい。</p>	<p>●教員のメンタルフォローは？</p> <p>教員が生徒の学生指導しているが、それによる負担はないのか</p> <p>回答：カウンセリングについては、入学後すぐに教員が面接。入学前課題や基礎カリサーチで学生の様子、学力を把握している。また、臨床心理士の先生にも相談している。</p> <p>回答：権利意識の強い学生が多く、日常生活から指導が必要。教員数の不足や学生からの言葉のハラスメントなどに対して、学校がどのように守ってくれるのか、と教員から質問もある。</p> <p>回答：専任教員が高齢化。定年退職はほとんどで、中途退職は少ない。</p>

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	○休憩時間にはラウンジで友達と歓談している場面が良く見られる。 ○感染対策でラウンジでの飲食は禁止している。 ○グループワークや自習のスペースが不足している。	○休憩時間、ラウンジに3クラス重なると狭い。 ○歓談できるスペースが少ない。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○スペースに限りがあるため、効率の良いラウンジの使い方を引き続き検討する。	
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	○弁当、パンの販売があり、学生は教室で食事をとっている。売店・食堂はない。 ○今年度も、食事は教室内で黙食するよう指導している。	○弁当やパンの販売は好評で、学生もよく利用している。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○関連病院の食堂利用についても引き続き検討されたい。	
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	○関連医療法人の奨学金制度があり、学年にもよるが1クラス2～7人程度が利用している。	○給付型奨学金の要件や採用決定時期が厳しく、関連施設への就職に繋がらない恐れがある。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○完全給付型奨学金制度への変更が望まれる。	●教員になりたい卒業生はいるか 回答：一定数いる。現場からの引き抜きは良くないので難しい部分もある。 ●卒業生が関連病院で働き、学校に戻る、といったモデルも考えられる。それも踏まえて、たくさん就職してくれれば。
6. その他	○京阪寝屋川市駅からJR忍ヶ丘駅経由で、学園の無料スクールバスが運行されている。 ○教員年齢層の高齢化	○最寄駅である近鉄生駒駅からのスクールバスがない。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○教員の確保が課題である。 ○近鉄生駒駅からのスクールバスを検討していく。	

4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

- カリキュラム改正後は、教育理念や教育目標、卒業時の到達目標、看護師教育の技術項目と卒業時の到達度など、全教員が参加して再確認を行った。授業科目に関わる教育の姿勢も変化するのではないかと考えている。
- 新カリキュラムに則りながらも、経験値による教授に偏らない、新しい教育方略をもっと柔軟に取り入れていく必要がある。
- ティーチングからコーチングへの教育方略の変更や、ICT教育の取り組みが全教員に浸透するよう、今後も教務間での情報交換や勉強会の参加に務めていく。
- 看護教育における頭作りとともに技術教育にも力を入れ、「気持ちの良い看護」が提供できるよう引き続き学び、学生に伝えていきたい。
- 感染対策として検温・行動記録・手洗い・マスクとゴーグル・アクリル板の設置・食事のとり方、掃除の方法・教室内や机、椅子等の消毒など、多岐に渡る対策を現在も毎日行っている。
- 感染対策を踏まえつつ、臨地実習施設と相談を行い、意識と技術の高い学生を育てていきたい。
- 一人でも多く関連病院に就職してもらいたい。引き続き医療法人和幸会と学校法人栗岡学園が連携し、目的が達成できるよう協力していきたい。
- 少子化の影響もあり、入学志願者が減少している。学校の強み・弱みを再度検討し、魅力ある専門学校作りをしていかねばならない。
- 広報の面では、個別相談の回数を大幅に増やし、積極的に対応している。
- 業務内容・看護技術・学生に関すること等について、教員同士が連携し、互いの質を高めていきたい。
- より時代に合った学校整備（自転車置き場の屋根など）を検討していく必要がある。
- 入学前から個性やキャラクターを把握し、学生が充実した学生生活を送りながら成長できるよう支援し、進学相談や就職相談に対するアドバイスも行っている。
- 学校全体で、キャリアアップを含めたキャリア支援をしていく。
- 卒後のサポートも手厚く行っている。卒業生にも本校で学んでほしい。
- 学園全体でエンロールメントマネジメントに取り組み始めた。
- 欠席をする学生が増加傾向にある。
- 他の看護学校が新設され、実習施設から受入を中止される場合も出てきた。

委員より

- 奈良県専修学校・各種学校連合会主催の見学説明会を、阪奈中央看護専門学校にて開催した。高校の進路指導部の先生方に、学生の声を聞いていただくことができた。また学生のうち2名の母親が当校の卒業生であることも、良さの表れと捉えている。
- 高等教育の就学支援新制度が導入されているが、専修学校にとっては大学への流出を後押ししてしまいマイナスとなっている。さらに、大学は定員の8割入学を厳守しなければならず、学生の確保が最優先。専修学校がこれに対抗するには、募集の仕方を媒体だけでなく、地域活動や口コミを大事にしていく必要がある。
- 大学は学習習慣を身につけた生徒が入学するが、専修学校は学習に受け身な学生も多く、まずは学習習慣を身につけさせなければならない。勉強を頑張る意味を、学生に理解してもらえるような取り組みが大事。専修学校全体で協力し合っていきたい。
- 滋賀県の淡海書道専門学校は、学生が地域で筆耕のアルバイトをするなど、地域に根差した教育を行っている。卒業生は自宅で書道教室を開業することも多く、地域とのつながりを大切にしている。また書道財団と連携し、会報誌に学校を掲載。登録者である書道教室の2代目3代目が入学した。関連団体との連携や、地元の親交が大事である。

●高等学校には組織として、生活指導部・進路指導部などがあるが、その中でも入試対策室の力が大きく、学内にも協力体制がある。学生募集を教職員で行っておられるが、募集に特化した専門職員が必要。入試対策室からは LINE, Instagram, tiktok などの SNS を毎日発信しているが、専門外の職員や兼任だと無理がある。専門職員は責任の重さが重要。戦略には強烈なものもあるが、教員も巻き込んで協力していく体制が重要。

●SNS の利用の巧拙で募集が変わる。三幸学園は、全体の戦略を練る部門、地域ごとに現場を稼働させる部隊に分かれており、データベースを活用して組織を戦略的に運営している。学生も巻き込むなど、SNS の運用が上手なところは募集が好調である。